

－調査の概要－

調査実施までの経緯

平成 23 年度、深谷台地域運営協議会の活動の目標の一つとして「子育て世代を理解し、課題に取り組む」を挙げていました（資料 6 参照）。その準備段階として平成 23 年 9 月より『地域と子ども』準備会を設置し、子育て世代の現状を話し合ってきました。11 月に戸塚区区政推進課から、取り組みを始めるためにもニーズ調査を実施しないか、と提案があり、協議会での合意を経て、12 月、区の委託による調査「地域子育て実態調査モデル事業」を行うことになりました。

調査の目的

調査を実施するにあたり、『地域と子ども』準備会（協議会で手を挙げたメンバー、小学校校長、小学校 P T A 会長、自治会長、民生児童委員、地域運営協議会事務局）（資料 5 参照）にて、調査の内容や実施方法等について話し合いを重ねました。まず対象は深谷台地域の子育て世代（0 歳～中学生の保護者）に限り、調査では以下の 3 つの目的をもち実施することとしました。

- （1）子育て世代の実態と意識などを把握し、今後の地域活動に活かす
- （2）その過程で、子育てに関わる団体個人のネットワークを築く
- （3）同時に新たな人材発掘を行う

実施の方法

調査は、平成 23 年 12 月より、以下のように取り組みました。

<子育てに関わる団体への呼びかけ>

12 月末、準備会で地域の子育てに関わる団体全てに、ネットワーク会議への参加を呼び掛けることになり、呼びかけ文を配布しました。（資料 1 参照）

<『地域と子どもネットワーク会議』の設置>

上記呼びかけに賛同してくださった団体で『地域と子どもネットワーク会議』を設置しました。（資料 5 参照）

<子育ての実態、調査の設問を考えるワークショップの開催>

1 月 7 日、第 1 回ネットワーク会議（20 名の参加）において、調査の趣旨を説明し、ワークショップ形式で子育ての実態、調査の設問に入れたい項目を

話し合いました。子育て真っ最中世代と、支援者のグループに分かれて活発な意見が飛び交いました（資料4参照）。ファシリテーターはアドバイザーの石井氏がつとめ、柔らかく和やかな進捗が評判でした。

<アンケートの設問作成>

ネットワーク会議で手を挙げてもらった2名（ぽっぽの家施設長、PTA役員）と準備会メンバーでコア会議を開き、アンケートの設問作成に取り組みました。設問作成にあたっては、横浜市の子ども青少年局の調査を中心に、横浜市都市経営局の調査、他自治体の調査、戸塚区子育て支援拠点「とっとの芽」の調査、泉区の子育てネットワークの調査などを参考にしつつ、ネットワーク会議で出された意見を含めて素案を作成しました。できあがった素案をネットワーク会議のメンバーに送付し、意見を聞き、設問をさらに精査し、1月末にアンケートを完成しました。

<エリマネニュースにて報告>

1月末発行のエリマネニュース19号に調査の予定、ネットワーク会議の記事を掲載しました。（資料6参照）

<アンケートの配布>

調査票の印刷、封筒の印刷、封入などの配布に至る作業は、ネットワーク会議のメンバーの協力を得て、スムーズに行うことができました。配布と回収をしていただいた団体・機関は9か所となりました（資料3参照）。団体はネットワーク会議の参加メンバーで、区役所が実施している赤ちゃん教室にも協力していただきました。

2月6日から配布開始、2月20日～25日回収としました。

<地域子育て支援拠点とっとの芽の協力による集計>

集計作業はNPO法人子育てネットワークゆめ『地域子育て支援拠点とっとの芽』のスタッフにお願いしました。依頼した理由は、深谷台地域の近隣では情報が漏れるのではないかと、という懸念があり、「とっとの芽」は同じ子育て支援施設で、子育て環境や状況に精通していること、おりしも施設独自のアンケート調査を実施中で、集計等に慣れているということで依頼しました。

集計方法やクロス集計については、コア会議でも協議し、石井氏と集計スタッフの打ち合わせも行いました。

集計は3月1日～13日の間に実施しました。3月13日、第1次の調査結果が出ました。

<調査結果の感想や今後に向けた意見を出し合うワークショップの開催>

3月21日第2回ネットワーク会議で、結果についての感想や、今後に向けての意見を出し合うワークショップを行いました。（各設問についての意見の主なものは、設問ごとのコメント欄に記しました。今後に向けての意見は「今後

に向けて」の項に記載しました)

<報告書作成まで>

3月23日の地域運営協議会に、結果報告を行いました。その際も子育て状況について、全体的には健全で安堵した、この貴重な資料をもっともっと精査し、深掘りしていくとよい、などの意見が出されました。

その後、1週間はアドバイザーの石井氏を中心に報告書の仕上げに集中し、3月末に完成の運びとなりました。

回収数

アンケートの調査票の配布と回収は次のように行いました。ネットワーク会議のメンバーの協力を得て、メンバーが所属する学校、保育園、自治会等の合計9団体・機関を通して各家庭に合計414件配布しました。回収数は243(内訳:小中学校187、乳幼児施設52)で有効回答数239でした。(資料3参照)

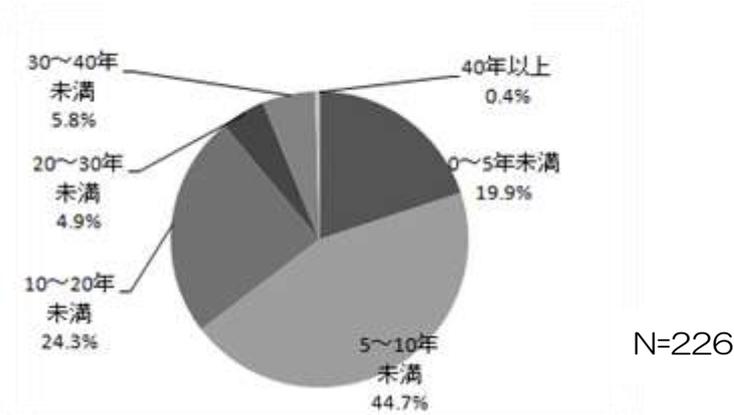
配布合計数に対する回収率については、58.7%(243/414)ですが正確な値ではありません。例えば、保育園、小学校、中学校に兄弟が3人いる家庭には3枚の調査票が届きますが、提出するのは1枚のみとなります。このため、子どものいる家庭の数に対し、配布数が多くなるため、実際には、回収率はもう少し高いことが予想されます。



— 調査の結果 —

あなたや家族について

1 現在の住まいに移り住んで何年になりますか

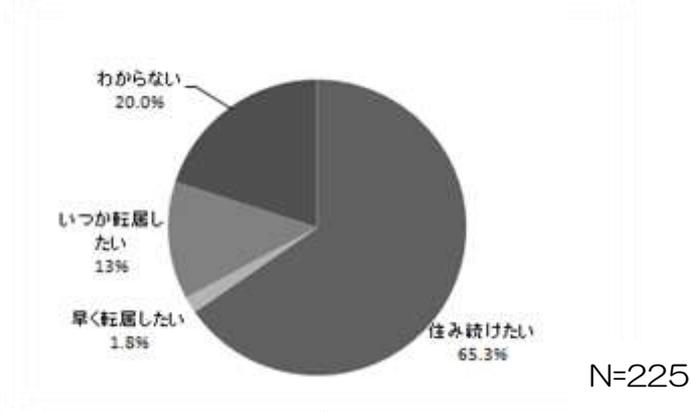


深谷台地域の子育て中の世帯は、10年未満が全体で65%となっています。若い子育て世代が移り住んでいることがわかります。アークプラザ戸塚が入居を開始して6年であり、全体の割合はその影響を受けていると考えられます。

アンケート調査結果をもとに3月21日に行われたワークショップ(以下、3.21WSと呼ぶ)では、一旦外へ転居した後に、戻ってくる人がいることや親と近居する世帯もいることがわかりました。

また、深谷台地域を居住地として選択する理由として、環境や学校、公園が近くにあることが子育てをしやすくしており、選択する理由になっているのではないかと、その他、不動産価格が購入しやすいということも理由にあるのではないかと聞いた声がありました。

2 今後継続して住み続ける気持ちがありますか



全体として、住み続けたいと考える人が65.3%となっており、永住志向が強いと考えられます。

3.21WS で出た意見では、その理由として学校が近い、公園が近い、環境がよい、安全である、などの子育てに適した条件が揃っているとの声が挙げられました。一方で、通勤・通学をする立場から見ると不便を感じるようになるため、特に子育て後の居住意識がどうなるのかを考えなければならない、といった声もありました。

3 ご家族や育児の状況

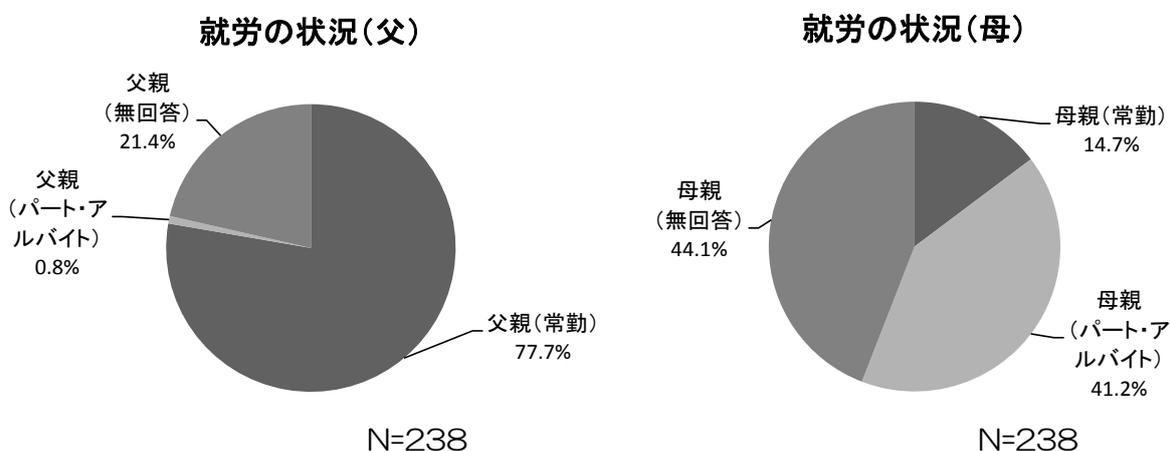
○父親の年齢

30歳未満	30～35歳未満	35～40歳未満	40歳以上
7	25	67	100

○母親の年齢

30歳未満	30～35歳未満	35～40歳未満	40歳以上
21	37	86	74

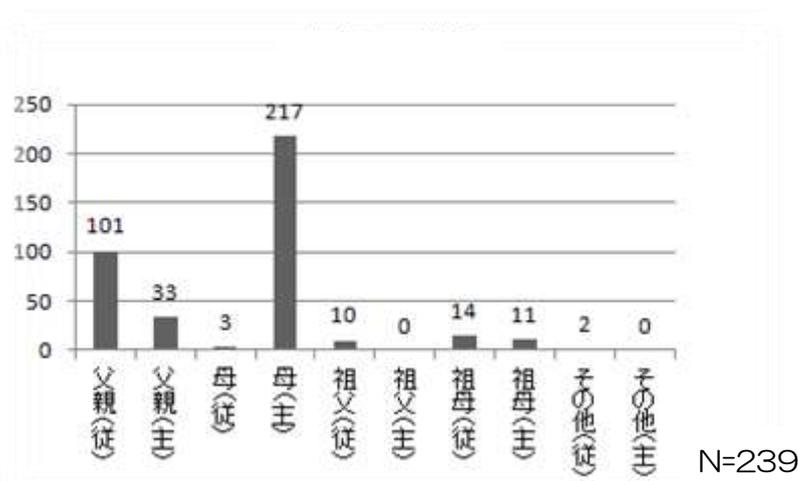
○就労の状況



就労の状況については、母親については、常勤が14.7%、パート・アルバイトが41.2%でした。父親、母親ともに無回答が多くありました。

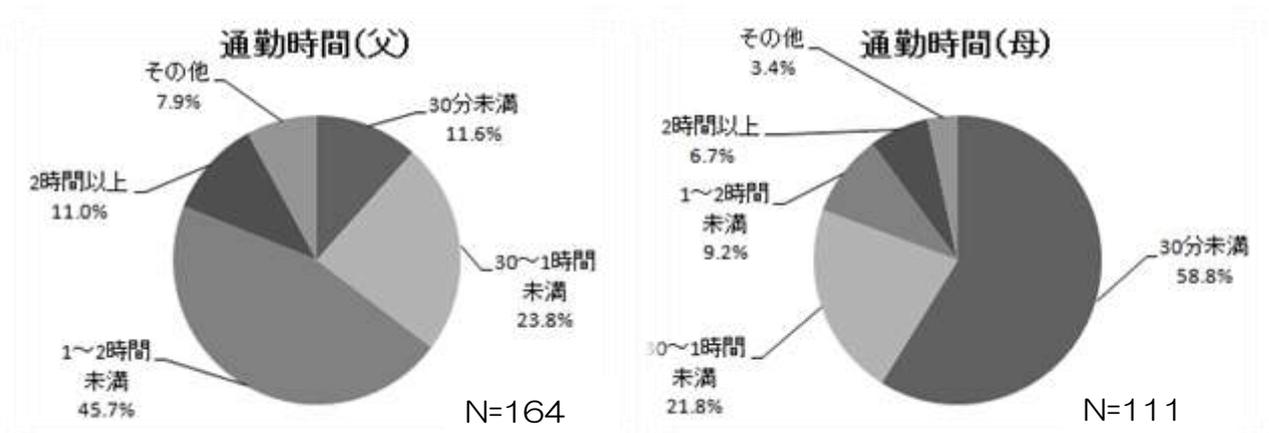
3.21WS では、次のような意見がありました。母親は殆どの方が就労しているのではないかと予測があったが、常勤とパート・アルバイトを合わせても55.9%となっており、印象と異なる。未就学児の場合と、そうでない場合では就労の状況が異なると考えられるため、分けて考える必要があるといった意見がありました。

○育児の主従



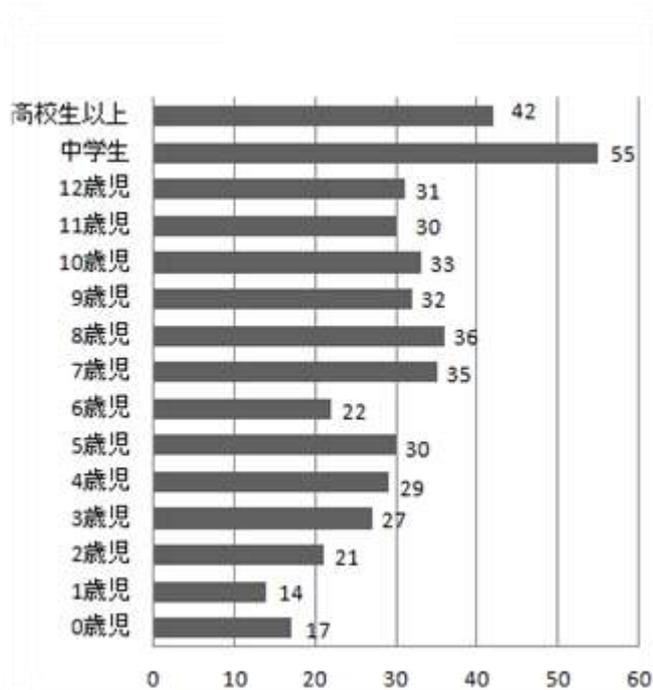
育児の主従関係の結果は、母親が主となり、父親が従となる育児家庭がほとんどであることがわかりました。多くはありませんが父親や祖母が主となっている家庭が合計44件ありました。正確な理由はわかりませんが、父子家庭であることや、母が働きに行き、父が家事・育児を担っている場合があるかもしれません。

○通勤時間



通勤に1時間以上かけている父親が57%と多く、育児や家庭に関わる時間が少ないことが予想されます。母親は30分未満が多く、近くで働いている人が多いようです。なお、祖父、祖母については、それぞれ回答数がそれぞれ7件、16件と多くありませんでした。通勤時間は祖父祖母ともに1時間未満が約60%となっています。

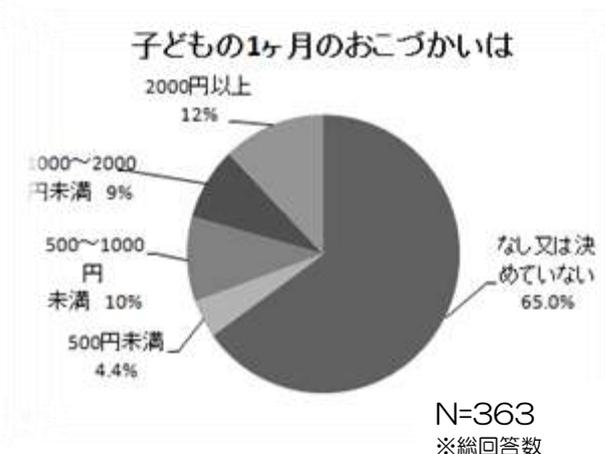
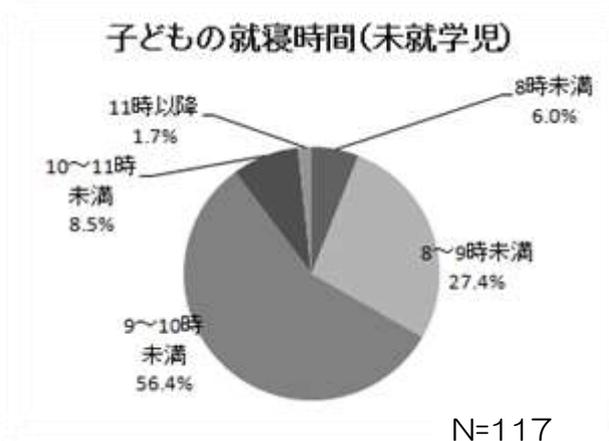
○子どもの年齢



2010年11月のドリームハイツ人口統計によると0歳～14歳までの人数は312人でした。今回の調査では、中学生以下の児童から412人の回収がありました。2010年12月以降の人口の増減は正確には把握できませんが、ドリームハイツ周辺には子育て世代が多く住んでいることが推察できます。

また、こうした児童は、ドリームハイツ周辺の小・中学校や乳幼児の施設などを利用していると考えられます。

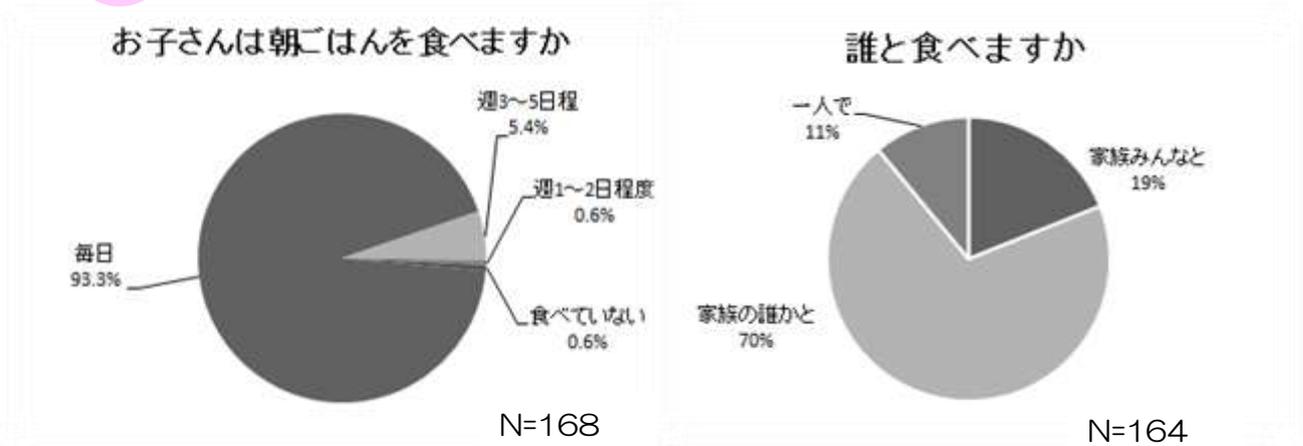
○子どもの就寝時間と1ヶ月のおこづかい



子どもの就寝時間は、遅くなっていると言われていますが、10時までには就寝する子どもがほとんどであり、83.8%となっています。

子どもの1ヶ月のおこづかいについては、「なし又は決めていない」がもっとも多くなっています。

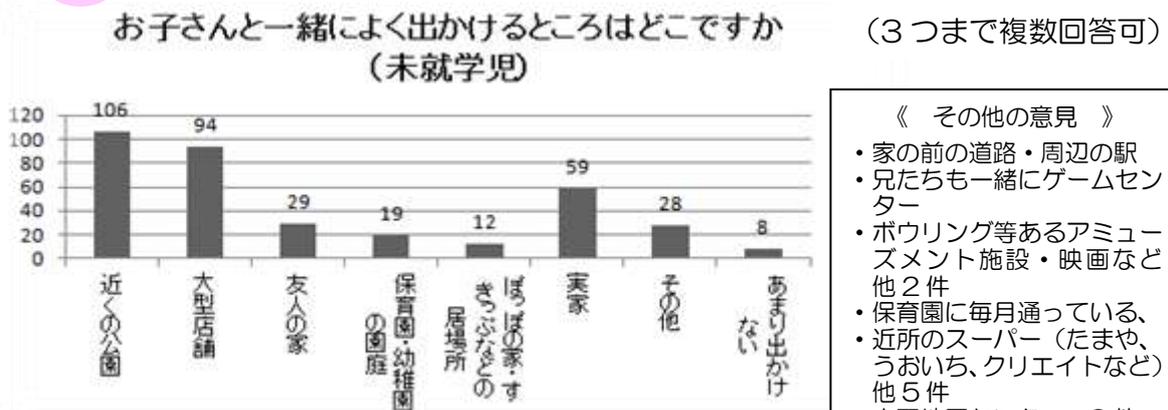
4 お子さんの朝ごはんについて



子ども達のほとんどは、ほぼ毎日朝食を食べています。また、誰と食べているかについては、「家族みんなと」「家族の誰か」を合わせる89%となっており、誰かと一緒に食べていることがわかります。

3.21WS では、深谷台小地域は、兄弟姉妹の多い地域なので、一緒に食べることをしやすいのではないかといった意見がありました。

5 お子さんと出かけるところ、土日の過ごし方

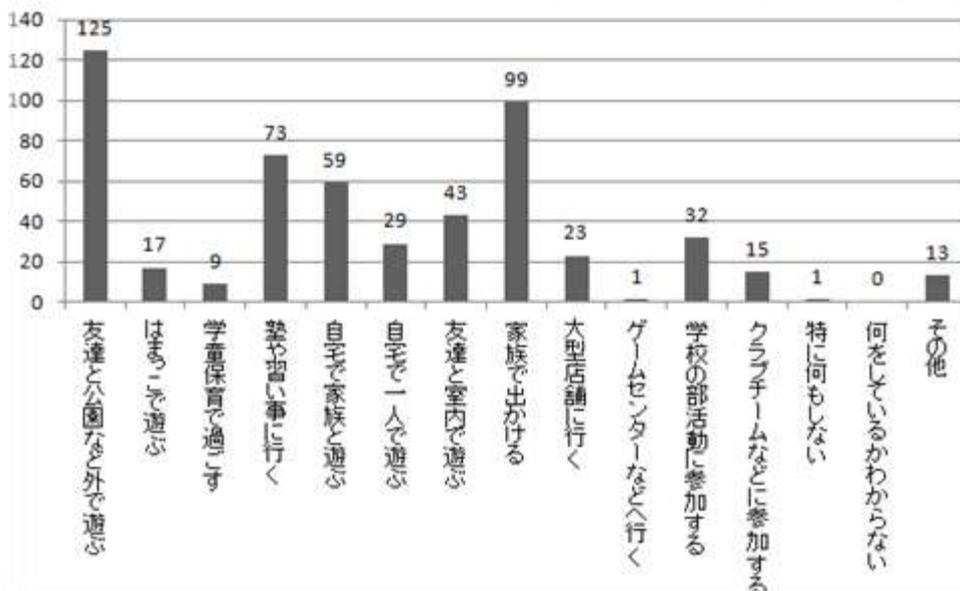


近くの公園、大型店舗が非常に多くなっています。

3.21WS では、実家が意外に多いといった声がありました。親が近くに住んでいる人が多いためと考えられます。また実家に行く理由として、親自身が親離れできていないのではないか、という意見と、近くで相談もでき、頼りにできる人がいることは良いのではないか、という意見がありました。

お子さんは放課後や土日をどのように過ごしていますか
(小中学生)

(3つまで複数回答可)



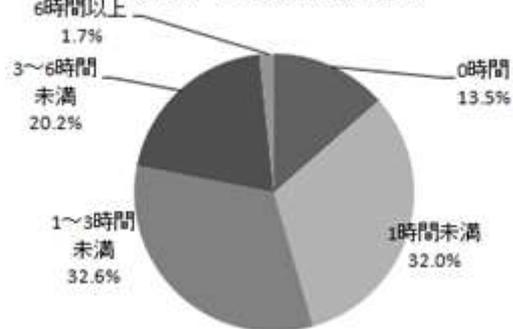
《 その他の意見 》

- ・実家に行く 他3件
- ・家でゲーム(家族や友人と)
- ・父親の仕事場で過ごす
- ・家で勉強やテレビ
- ・友人と外に出かける
- ・携帯
- ・家族と過ごす
- ・自宅で兄弟で遊ぶ
- ・お祭りや試合
- ・キャンプやイベント

小中学生が放課後や土日にどのように過ごしているかについては、「友人と公園など外で遊ぶ」「家族で出かける」が多くなっています。次に「塾や習い事に行く」が続きます。

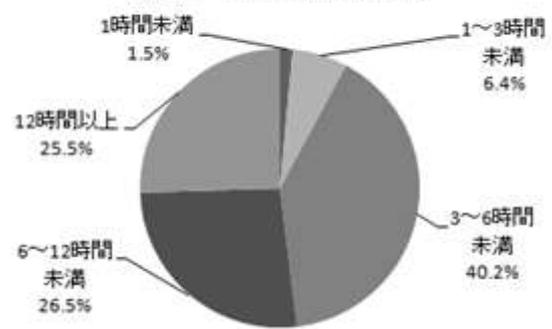
6 平日、子どもと過ごす時間

平日子どもが起きている間に一番下のお子さんと過ごす時間は一日何時間ですか(父)



N=178

平日子どもが起きている間に一番下のお子さんと過ごす時間は一日何時間ですか(母)



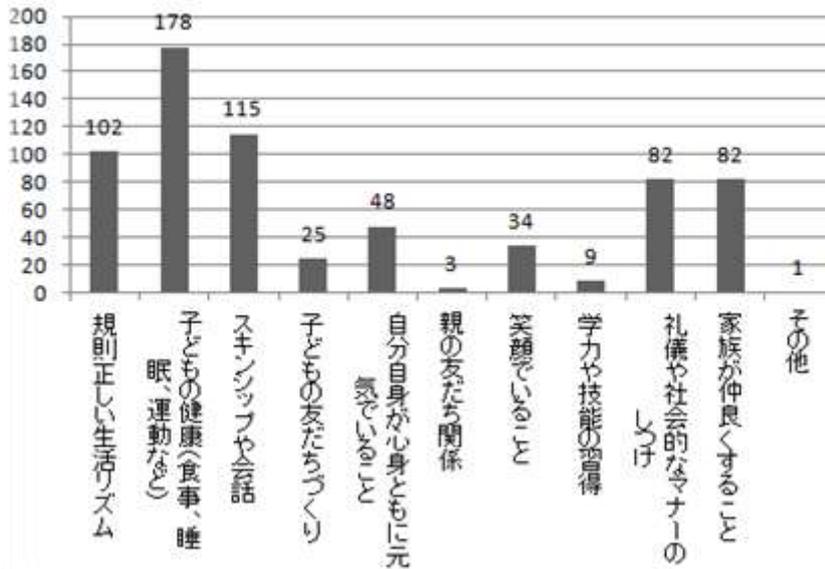
N=204

平日子どもと過ごす時間については、父親が0時間と1時間未満を合わせると45.5%となっており少なくなっています。通勤時間の長さに関係していることが推察されます。

子育ての実状について

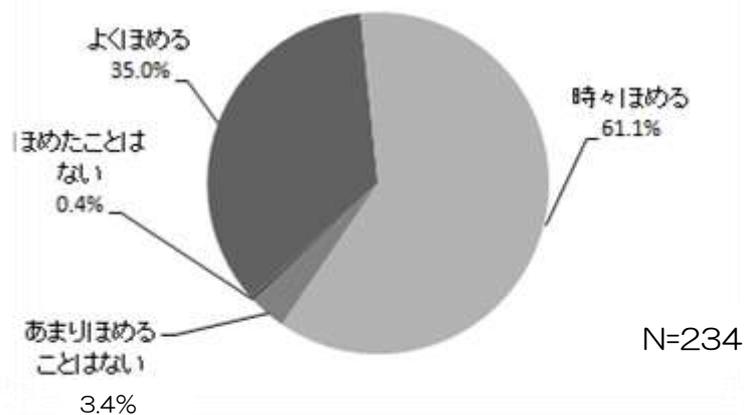
7 子育てで頑張っている事、大事にしている事

(3つまで複数回答可)



「子どもの健康」を第一に考えています。また、「規則正しい生活リズム」「礼儀や社会的マナー」といったしつけに関するものが多くなっています。この他に、スキンシップや会話、家族仲良くするなど、人間関係も大事にしていることがわかります。その他は、母親のストレス発散でした。

8 子どもをほめることはありますか

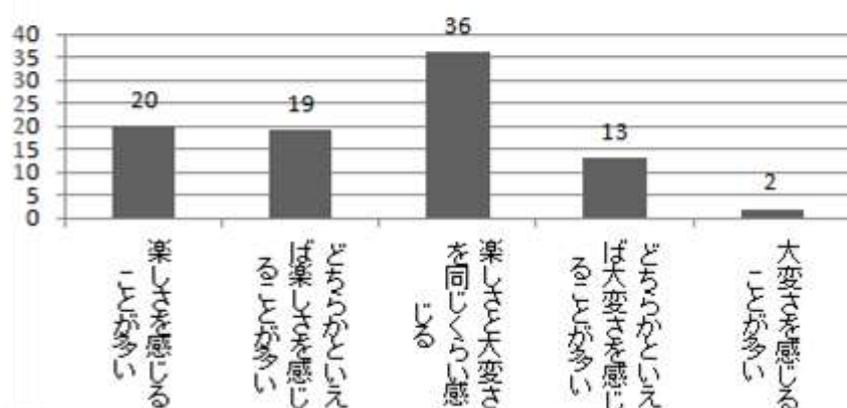


この設問は、子どもの自尊感情（自己肯定感）が弱い、と言われているために、その要因の一つとして子どもをほめることが大切であると考え、設けた設問である。

調査結果からは、子どもは96%がほめられているがわかりました。

3.21WS では、意外な結果だという声が多くありました。親はほめているつもりでも子どもは、その通りに受け取っていないのではないか、または親の基準に沿った時だけほめているのでは、という意見がありました。

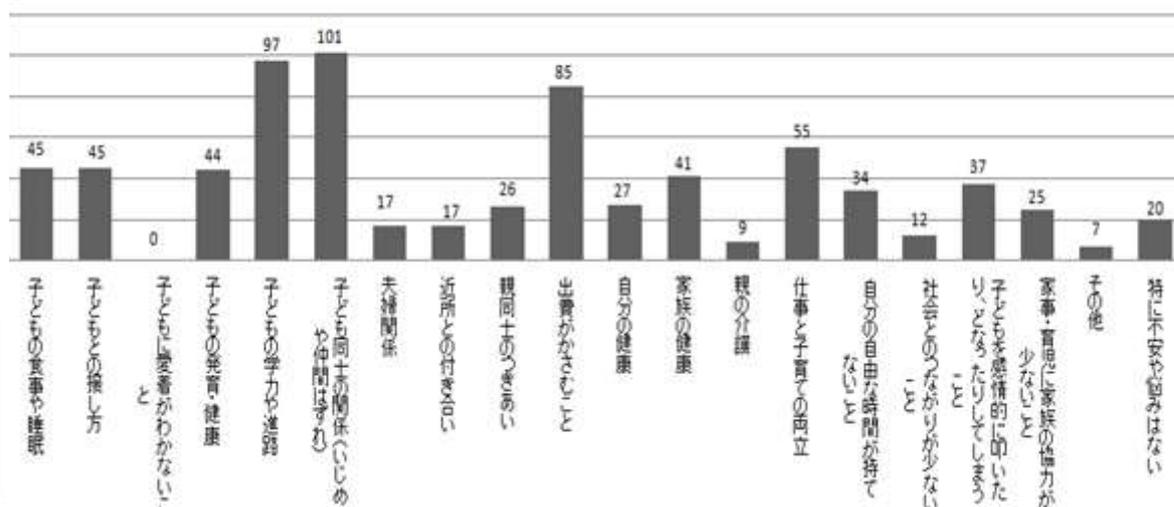
9 子育てをしていて、楽しさと大変さをどのくらい感じていますか



N=110

全体の割合としては楽しさを感じるようになってきました。一方で「どちらかといえば大変さを感じる人が多い」と答える人も13人いました。また、大変さを感じる割合は子どもが小さいほど高い割合になっていました。

10 子育てをしていて、感じる不安や悩みは何ですか（複数回答可）



《 その他の意見 》

- 妊娠中で、上の子がイタズラすると、体が動かないのですぐどなり、どうして怒られているか理解させてあげられないと思うこと
- 公園、砂場等の放射線量 ・ 夜泣き ・ 自分の持病により不自由 ・ 学校への親の参加が多すぎる ・ 子どもの心の発育 ・ (子ども同士の関係) については今はないが今後心配

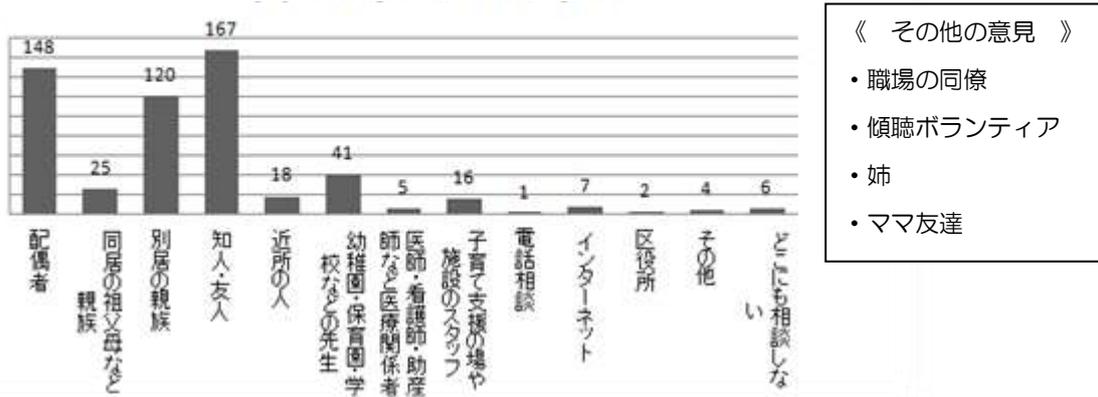
「子ども同士の関係」「子どもの学力や進路」といった子ども自身のことについてが非常に多くなっています。続いて、「出費がかさむこと」「仕事と子育ての両立」といった経済面や働き方について悩みを抱えていることがわかります。

3.21WS では、特に子ども同士の関係について次のような声が多くありました。教育現場では、いじめる子どもやいじめられているのを見ている子どもの方が多いのに、親はいじめられる方を心配しています。いじめる子どもの心配をする必要があるのではないか。また子ども同士のトラブルは、子ども同士ではそれほど問題が大きくなっていませんが、親が出てくることで問題が大きくなるケースがあるのではないか、といった意見がありました。この他に、親が地域のなかで、人と人とのいろいろな関係を経験することが少なくなっていることで、他者への理解やお互い様の関係を育みにくい状況をつくり、問題を起こしやすくしていること。保育園も学校もサービス提供の場になっているため、親との関係づくりを難しくしているのではないかと聞いた意見が挙げられました。



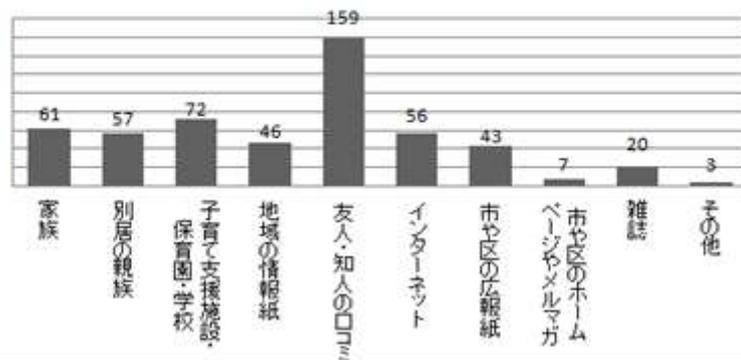
子育ての相談相手と情報の入手

11 子育てで困ったことは誰に相談し、支えてもらっていますか (複数回答可)



「知人・友人」が最も多くなっています。また続いて「配偶者」や「別居の親族」となっています。困った時に相談できる人が身近にいる人が多いと考えられます。一方で相談しない人が6人いることもわかりました。

12 子育てに関する情報はどこから入手しますか (複数回答可)

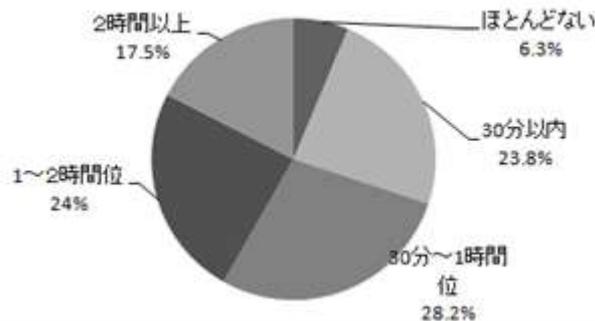


「友人・知人の口コミ」が最も多くなっています。その他は、同程度になっています。家族や学校などと同じくらい、インターネットを通して情報を入手している人がいます。

夫婦の会話

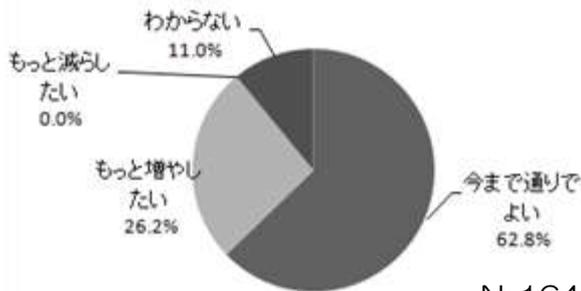
13 夫婦の会話について

夫婦の会話は一日にどのくらいありますか



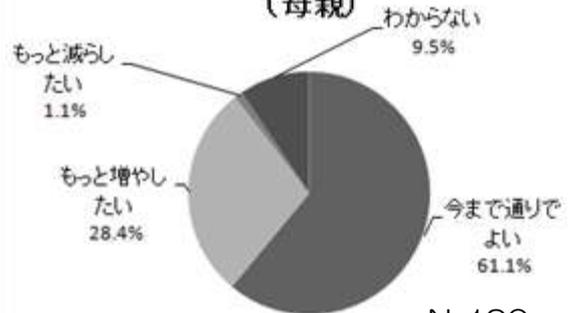
N=206

夫婦の会話時間についてどう思いますか (父親)



N=164

夫婦の会話時間についてどう思いますか (母親)



N=190

夫婦の会話については、1時間未満を合計すると58.3%となっています。ほとんどないと答えた人は6.8%います。また父親、母親それぞれに聞いたところ、今まで通りでよいと答える人が双方とも60%を超えていました。またもっと増やしたいと答える人が次に多くなっていました。

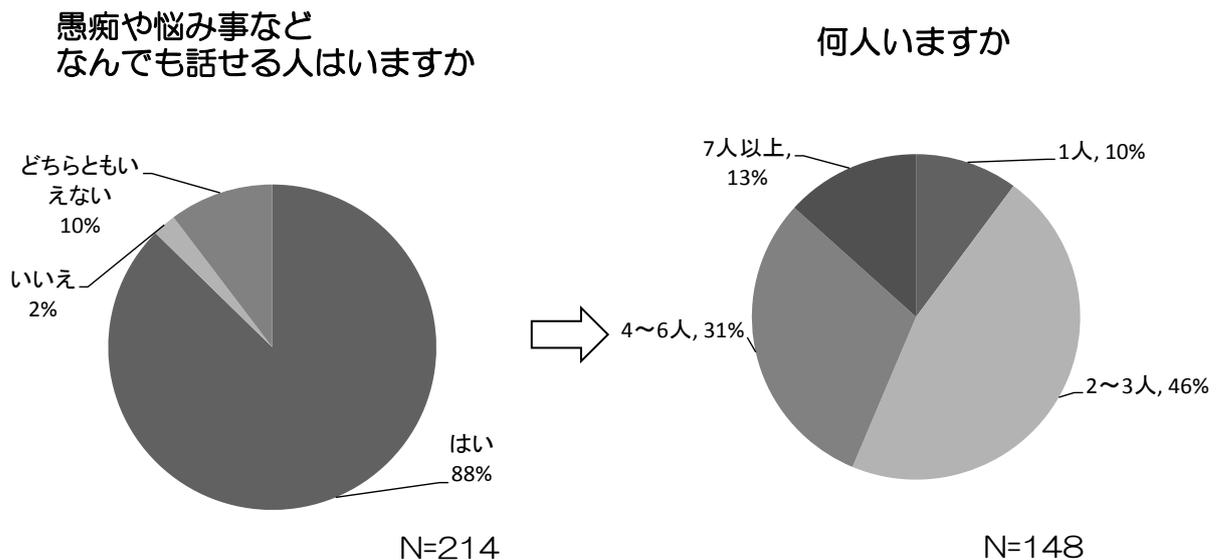
この設問は、「もっと夫に話を聞いてもらいたい」「夫には話を聞いてくれるだけで良い」というワークショップでの子育て世代の声を受けて実状を把握してみようと設けたものです。

3.21WSでは、「夫婦とも今まで通りで良い」、「もっと増やしたい」というのが同じ%というのは、先に挙げた「もっと夫に話を聞いてもらいたい」「夫には話を聞いてくれるだけで良い」という声と一致しないではないか、といった意見がありました。

子育てに関わっている方の実状

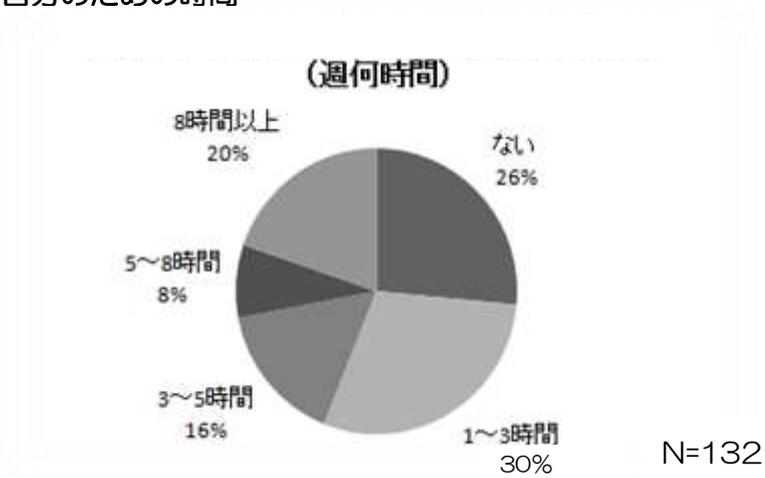
14 子育てに関わっている方の実状

○愚痴や悩み事を話せる人

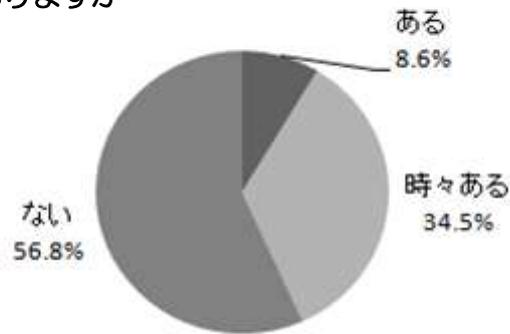


愚痴や悩みを話せる人については、87%の人がなんでも話せる人がいると答えています。また、人数も複数人以上いる人が多くなっています。一方で、なんでも話せる人が「いない」もしくは「どちらともいえない」と答える人が合わせて12%となっています。

○趣味をやるなど自分のための時間

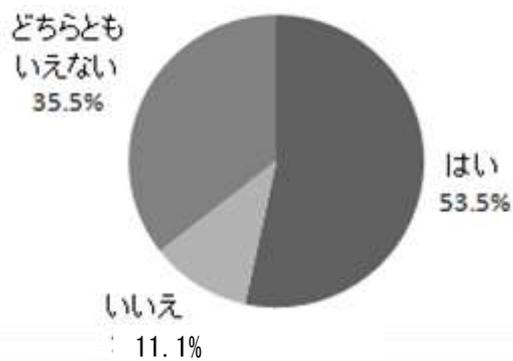


○孤独を感じる時がありますか



N=220

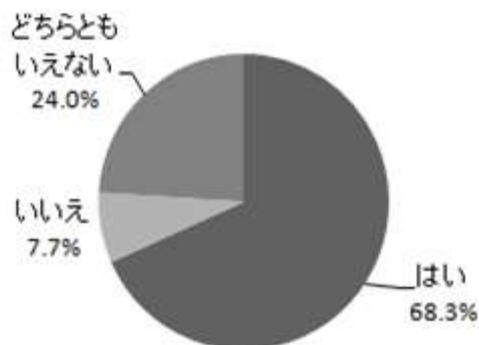
○ストレスの解消法を持っていますか



N=217

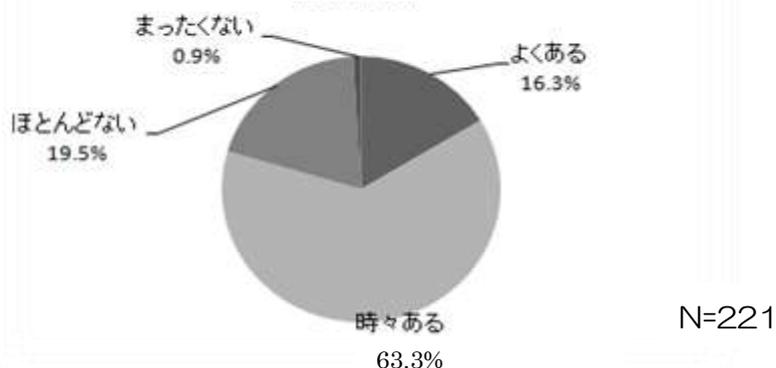
子育てをしている方の実状を尋ねた設問では次のようなことがわかりました。孤独を感じることはあるかについては、「ある」「時々ある」と答えた人を合わせると43.1%でした。相談する人はいても孤独を感じる人が多くいることが推察されます。またストレスの解消法があるかないかについては、回答が分かれませんでした。

○安心して自分を出せる場所がありますか



N=221

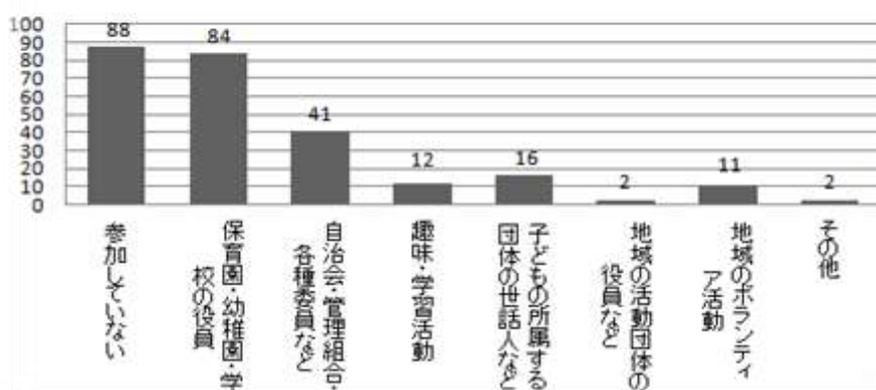
○人から感謝されたり、ほめられたりすることはありますか



安心して自分を出せる場所があるかについては、約70%の人があると答えています。また親の自己肯定感が子育てに影響するとして設けた「人から感謝されたり、ほめられたりすることはあるか」を聞いた質問では、「よくある」「時々ある」を合わせると79.6%の人があると答えています。

子育てをする人の実状に関する結果について、3.21WS では次のような声がありました。安心して自分を出せる場が約70%あるという点では、先に挙げた愚痴や悩みごとをなんでも話せる人が88%いるという回答結果と合わせて安心できる数字が出ているのではないかと。また、「愚痴や悩みごとをなんでも話せる人がいない」、「趣味などをする自分の時間がない」、「ストレス解消法を持ってない」、「自分を出せる場がない」については、どちらともいえないという人の割合が多いことも現実であり、今後の活動を考える際に意識しておかなくてはならないのではないかと、といった意見がありました。

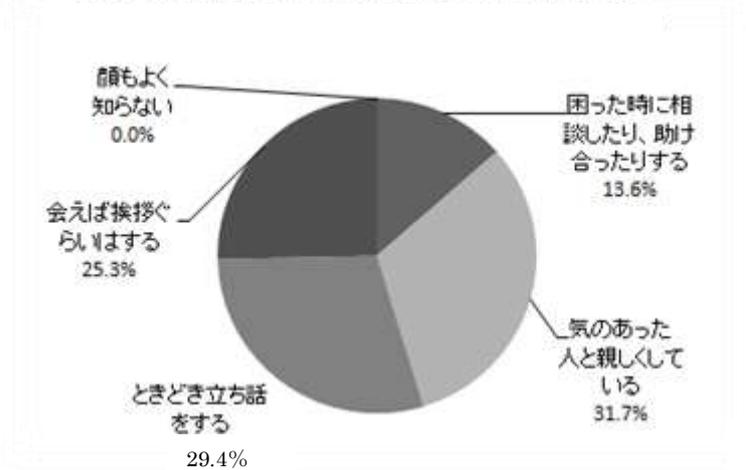
○子どもの通学先や身近な地域で何か活動に参加していますか（複数回答可）



子どもの通学先や身近な地域で、何か活動に参加していますかと尋ねた設問では、「参加していない」が多かったものの、参加している人が多いこともわかりました。その他については、「参加したいと思っている」「子どものクラブ活動を通して社会とのつながりを持ちたい」といった意見でした。

近隣とのつきあい

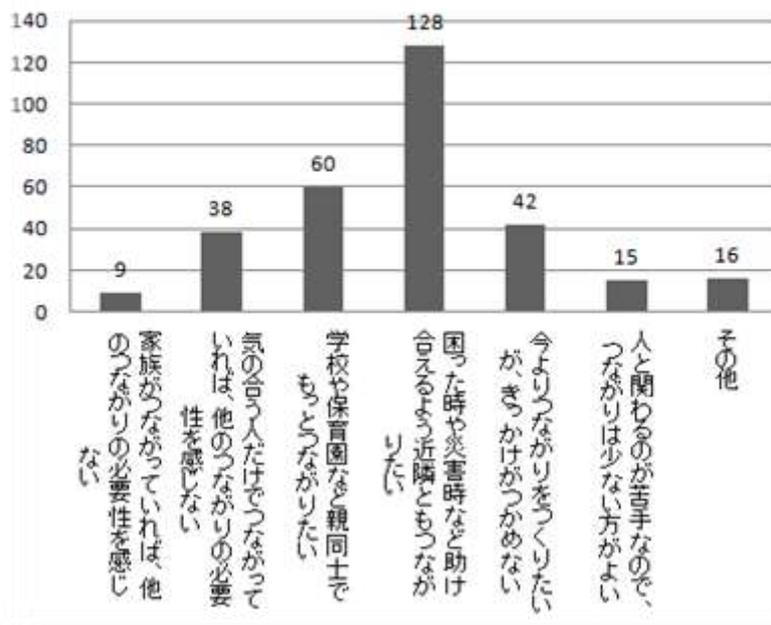
15 近所の人とどのようなつきあいをしていますか



回答したすべての人がなんらか近所の人と関係をもっていることがわかりました。顔もよく知らないと答えた人はいませんでした。

16 家族や近隣とのつながりについてどのように思いますか

(複数回答可)



《 その他の意見 》

- 保育園などに通いだせば、周りとの時間が合うので、それまで今まで通りしかない。
- 家族間のつながりが一番大切。近隣に気がつかって常に仲良くする必要は無いと思いますが、何かあったときには手助けできればという心構えはあります。
- 今のままでも不便はない。自然と広がっていけばいい。
- 年配の方々になりたいほうだいでこわすぎる。
- 今のまま沢山の方とあいさつからつながりを広める
- 結婚後もフルタイムのため全くない
- 必要な時に関わりを持てるよう心がけたい
- 近隣とのつながりも大切
- 仕事が忙しく交流の機会が少ないので気持ちがあるが時間がない
- いろんな人達とまんべんなくつながっているので満足している
- 関わりのある幼稚園なので今まで通り支えあっていきたい

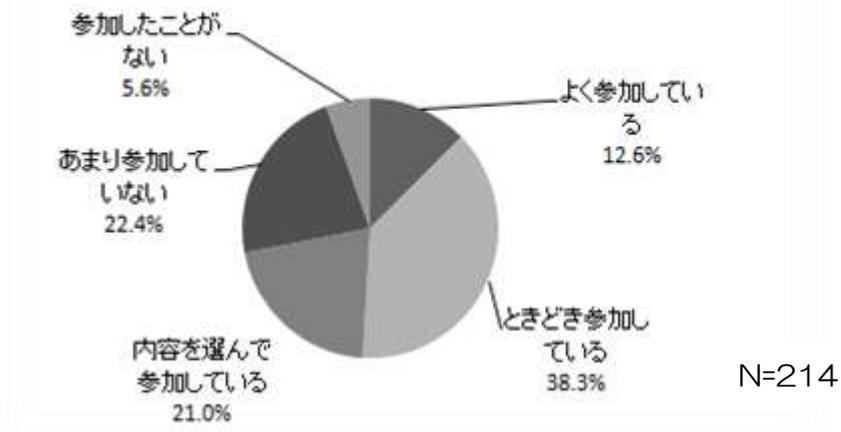
災害時等のいざというときに助け合える関係をつくっておきたいと答える人が多くなっています。また、学校など子どもを通した親同士の関係をもっと持ちたいと考えている人が多くいることもわかりました。

3.21WS では、次のような意見がありました。近所とのつながりはよい結果なのではないか。近隣につながりを求めている人が多い。特に震災後につながりを求める人は増えているのではないか。また、つながりを求めているも、きっかけがつかめない人もいたので、きっかけを作ったり、声をかけたりすることが必要だろうといった意見がありました。一方で、多くの人がつながりを求めているにも関わらず、実際にはいろいろな集まりに参加が少ないのはどうしてなのか、今後丁寧な検証が必要だろうといった意見もありました。



行事・催しへの参加

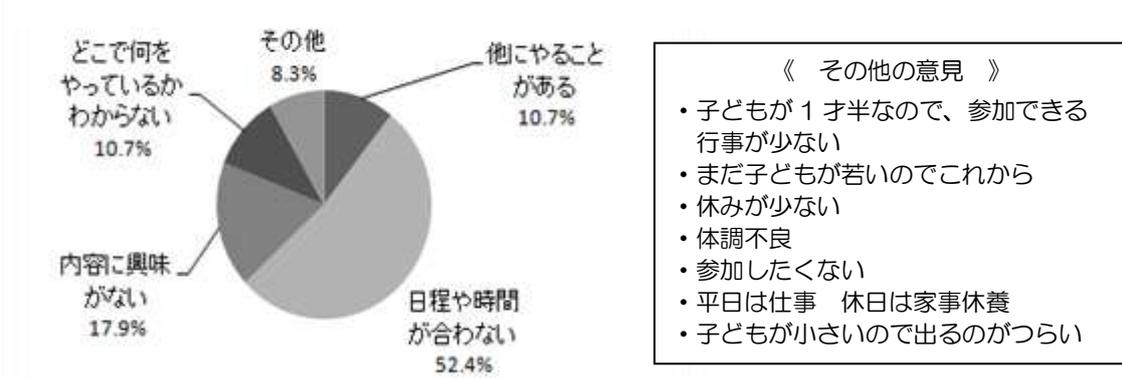
17 地域の行事や催しへの参加状況（ご家族を含めて）



何らかの行事・催しに参加している人は、合計すると71.9%となっています。少なからず、近所のひととのコミュニケーションの機会になっていることが期待できます。

参加したことがない・あまり参加していないと答えた方の理由

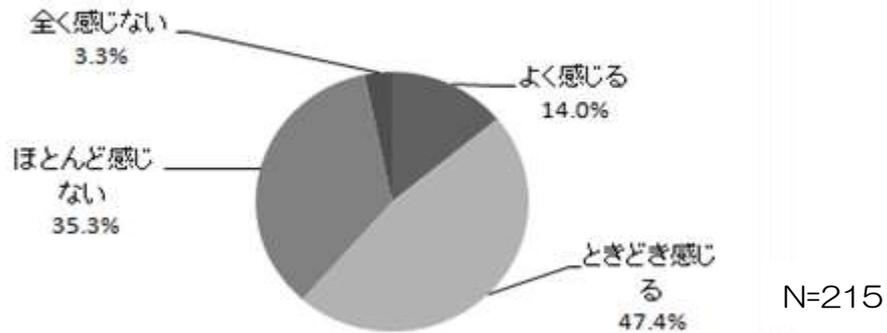
N=84



前の設問で「参加したことがない」「あまり参加していない」と答えた方の理由を尋ねた設問では、日程や時間が合わないと答えた人が半数以上になっています。またどこで何をやっているかわからないと答えた人は10.7%になっています。実施する内容に応じて、日程や広報の方法を検討することで、これまで参加していなかった人が参加する可能性があることもわかります。

地域からの見守られ感

18 地域に見守られている、支えられていると感じますか



地域に見守られていると感じているのは、「よく感じている」「ときどき感じる」を合わせると62%でした。

3.21WSでは次のような意見がありました。学校で職員をしている立場から見ると、地域にとってもお世話になっていると感じているのに、今回の結果は、地域に見守られていると感じている人の割合が低いと思う、といった意見でした。自由記入の欄には多くの意見が書かれおり、感謝の気持ちが伝わってくるという意見もありました。

自由記入：

《 よく感じる方の意見 》

- ・外での会議時、子どもとの参加に配慮し、後からフィードバックするのでムリに参加しないでもいいと言ってもらえた。
- ・子どもが一人で困っているとき助けてくれた。
- ・地域の行事に参加した時（プレイパークや集会所でのクリスマス会、夏のお祭りなど）。
- ・植え込みのそうじをしている方とのあいさつの時など。
- ・学校の放課後、アフタースクール 他2件
- ・子どもが外に出て遊んでいる時、帰宅時かぎを忘れている時、学校へ行くことをしづめた時等子ども、子育てを支えてもらっています。
- ・クラブチームで世話になっている時
- ・年間行事（夏祭り、文化祭、フリーマーケット等）は子どもにとってとても楽しい。
- ・赤ちゃん教室への参加
- ・学援隊の方々にお世話になっている時 他1件
- ・登下校のパトロール 他5件
- ・子どもに声をかけてくれる 他6件
- ・地域活動をしている方々と話しているとき
- ・登校、プレイパーク等地域の方がとても暖かく声をかけてくださり、子どもたちを大事にしてくださっている
- ・環境が整っていること。（ドリームハイツ周辺）

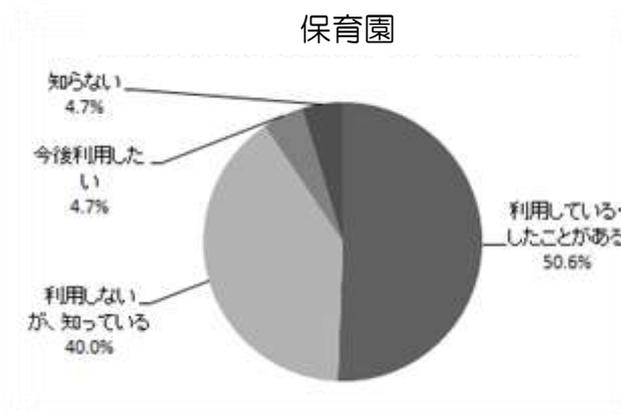
《 時々感じる方の意見 》

- 声をかけてもらう事
- 子どもに話しかけられたりする時
- ご近所に親切にいただいた時
- 「ぼっぼの家」「俣野保育園」「プレイパーク」子育て支援が近くにあり、よく利用させてもらっている
遠出しなくても、子どもを安心して充実して遊ばせられる 他 2 件
- ボランティアさんをよく見かけるので
- 中華屋さん、八百屋さんなど、声をかけてくれる
- 行事（運動会など）を開いてくださるとき
- 学校行事に地域のお年寄りが参加してくださるとき 他 4 件
- 子どもたちの様子を近所の方がよく教えてくれる。「〇×公園で楽しそうに遊んでた」他 2 件
- グリーンベストを見るから
- 何かあれば連絡をくれる
- 登下校や放課後に、地域の方がパトロールしてくださっている時 他 25 件
- 子どもたちがまわりの人に助けられているのを知る時 他 1 件
- 知らない人から子どもを注意されたりほめられたりする時 他 1 件
- 友人どうしで、ママ友 etc
- はまっこやアフタースクールでお世話になっています 他 4 件
- 地震時 子どもの見守り
- 役員など
- 子どもだけで遊べる公園があること
- 地域の方々が夜、パトロールしてくれているのを見た時 他 4 件
- 子どもの交通安全、不審者情報など
- 近所でのいろいろなイベント、プレーパーク、クリスマス会、夏祭りなどの開催があるので
- 自治会や管理組合などで様々な活動をしてきている時
- 階下の方が子どもはうるさくて当たり前だから足音なども全く気にならないから大丈夫と言ってくれた
- 助産師さんや赤ちゃん訪問をしてくれた時
- 笑顔で挨拶 他 1 件
- 地区センターやおもちゃ図書館を利用した時

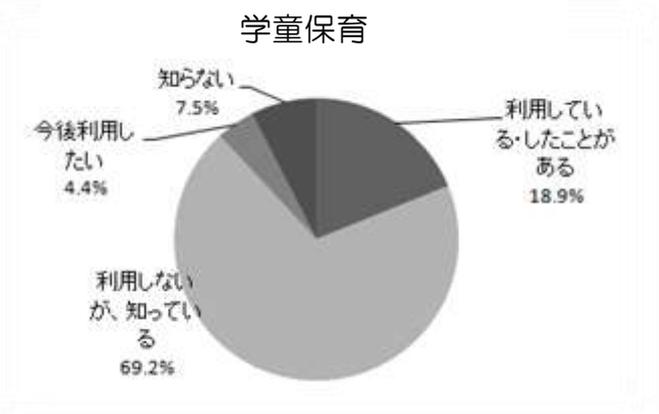


地域の施設や活動の利用

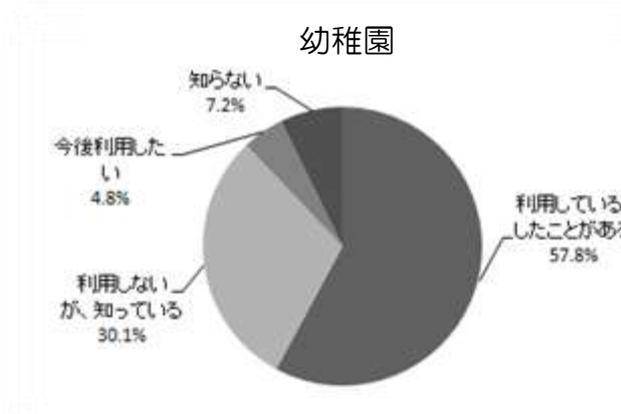
19 地域の施設や活動の利用状況について



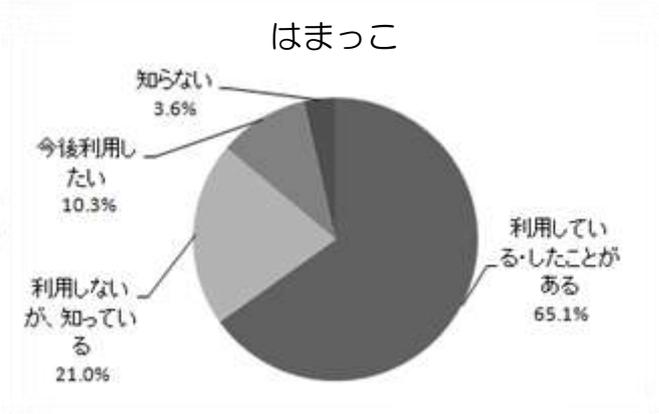
N=170



N=159

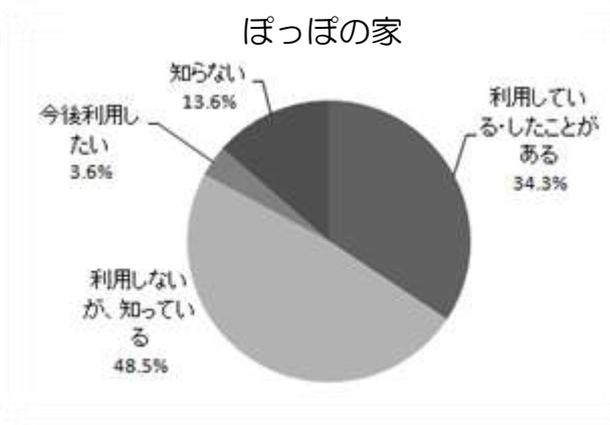


N=166

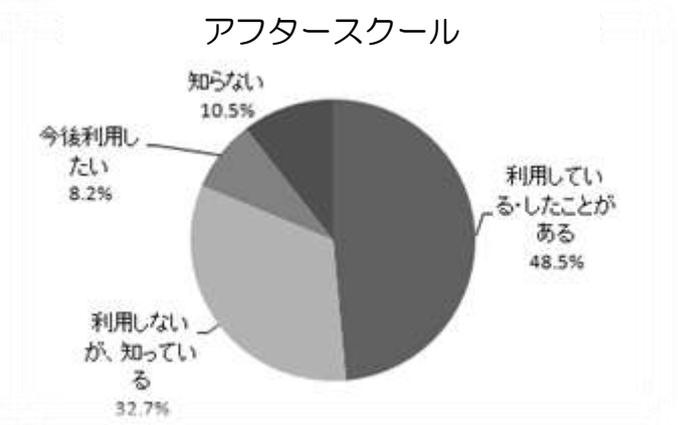


N=195

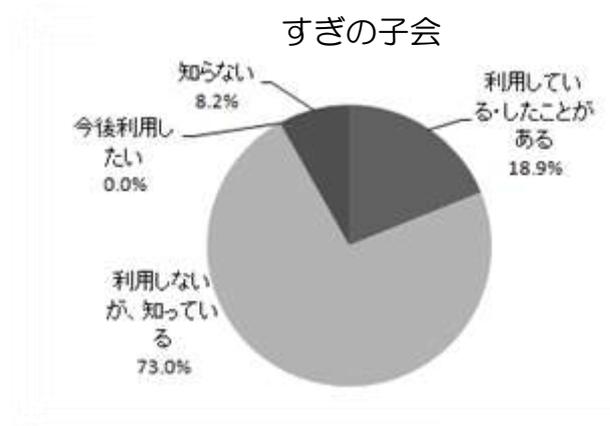




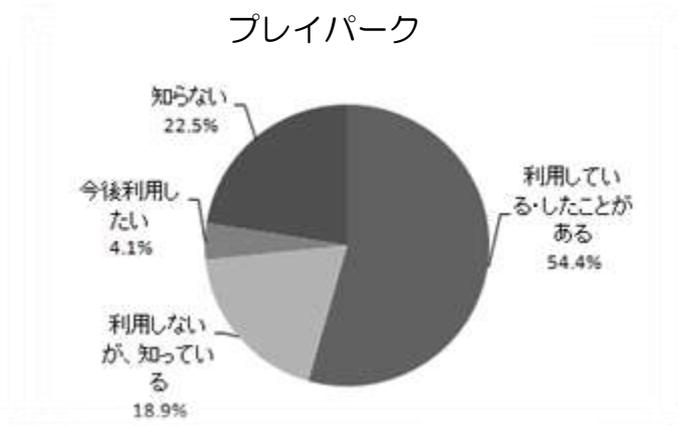
N=169



N=171



N=159

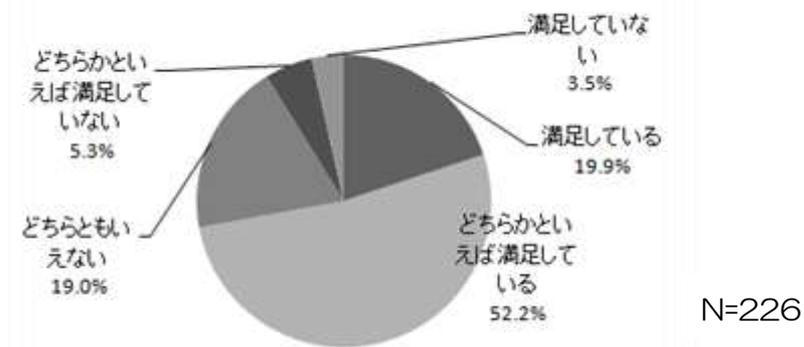


N=169



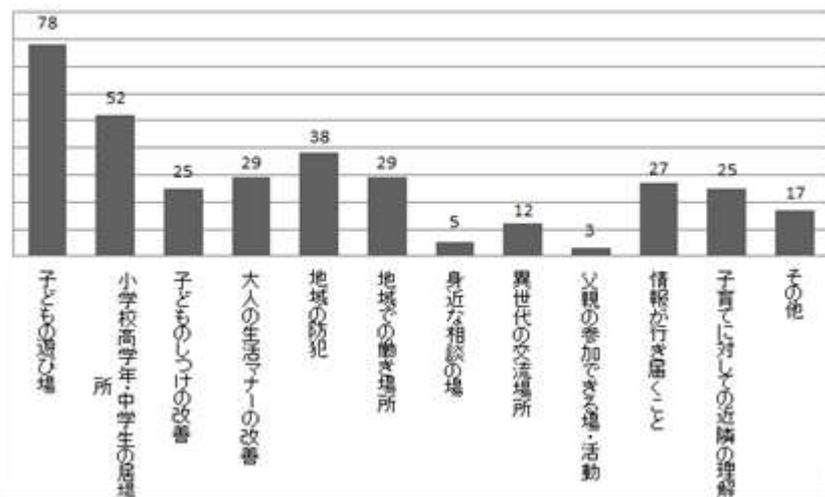
生活の満足感・地域の改善点

20 あなたは現在の生活に満足していますか



現在の生活の満足感については、「満足している」「どちらかといえば満足している」を合わせると72%となっており、満足している人が多いことがわかりました。

21 地域でもっとこんなこと（もの）があればよい、ここが改善されるともっと住みやすくなる、と思うこと（複数回答可）



「子どもの遊び場」、「小学校高学年・中学生の居場所」が必要、もしくは改善されるとよいといった子どもに関する声が多いことがわかりました。また、地域での働き場所や大人の生活マナーの改善といった大人に対する声も多くなっています。

3.21WSでは、子どもが十分遊べる場、雨の日の遊び場が不足しているのではないかとといった意見がありました。また「子育てに対しての近隣の理解」の多さから考えられることとして、近隣の理解ややさしい言葉かけなどがあれば、もっと子育てがしやすく、住みやすくなるのではないだろうかといった意見がありました。この他、大人のマナーの悪さに関する意見、家族がすべての基本なので、親が安定することが重要といった意見、そして地域では「お互い様」の気持が大事といった意見が繰り返し出されました。

具体的な内容・提案：

《 あるといいもの 子どもの遊び場 具体例 》

- 地区センターが（公民館）がハイツ周辺にあるといい。
- 犬が多いので、芝生などに入りづらい（フンについても） 他2件
- 室内の遊び場 他10件
- 雨の日にすごせるところがあると助かります 他9件
- 児童館（広くてきれいな）
- もちつき大会など季節のイベントを充実させていただけると参加が増えると思う
- 公園に関する意見
 - 侯野公園はせっかく広いのに、遊具（特に1～3才児用）が少なく残念 他12件
 - 安心して遊べる公園（きれいにしてあるなど）
 - 公園の遊び場を整備して欲しい（砂場はあるが汚くなって遊べない。砂の量も減ってきていたり）
 - 公園が欲しい
 - 自転車が自由にできる公園 他1件
 - ボール遊びなど出来る場 他3件
 - 鉄棒がない
- ボーネルンドの遊び場が欲しい
- ログハウス
- 自習ができるところ
- 小学生の遊ぶ場所が少なすぎる 他1件
- 蛍光灯が少ない

《 あるといいもの 小学校高学年・中学生の居場所 具体例 》

- 相談できる大人が付き添ってくれる所
- 徒歩圏内に図書館 他6件
- 室内で集える場所 他4件
- 部活クラブ以外で集まれる場、放課後集まれる場所
- 地区センター的なものがハイツにあれば良い
- 体を動かして遊べる場所が少ない（遊具がない）
- 公園の遊具が高齢者と幼児向けばかりなので
- 各種スポーツや運動ができる場所、テニス（壁打ち）、スケートボードができるなど
- 思いきりボール遊びができるところ
- お金を使わずに過ごせる所
- 学習スペース、サークル活動ができるようなたまり場
- ハーモスやローソンでたまるのはやめてほしい
- 今働く人が多い中、土曜日でも学校の方がよいのではないかと感じる
- 公園で小さな子どもが遊ぶ遊具でゲームしている

《 改善点 子どものしつけ 》

- 深谷中の生徒で、校門の前でタバコを吸ったり、化粧をしながら座り込んでいる子どもがいる
- 階段にたまる。火遊びをしている
- 盗った盗られたの問題や、おもちゃのピストル遊び
- もっと子ども～大人まで交流を持ってほしい
- ゴミの持ち帰り 他 1 件
- 親が自分の子どもにもっと興味をもつべき
- 習い事教室の充実
- 特に中学生登下校時広がって歩く
- 信号のある所で車が来ない時、横断歩道がない所で渡ってしまう
- 挨拶やマナーを注意できる大人
- 外でゲームをしている子を見るとがっかりする
- 大人になっても困らないマナー
- 中学生がよくタバコを吸っていてみともない

《 改善点 大人のマナー 》

- たばこ 他 2 件
- 自転車の乗り方、タバコのポイ捨て
- 犬
- あいさつ
- ゴミの捨て方 他 3 件
- 昼間からワンカップを飲んでポイ捨て
- 違法駐車等、交通ルール
- 人の道をわかってない人も多くいると思う

《 改善点 防犯 》

- 登下校時の見守り
- 外灯など増やして欲しいです 他 2 件
- 見廻り（おまわりさん）する方ふやす 他 6 件
- バイクが盗まれた
- 住民が安心して暮らせるように気付く、という意味で、やはり交流も大切かも。
- アーク横の保有林
- コンビニの騒音、暴走族など 他 2 件
- 防犯カメラの設置
- 万引き防止
- 植え込み、しげみが多く危険な箇所あり

《 あるといいもの 異世代交流 》

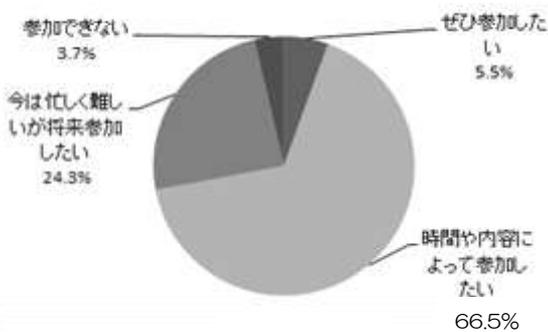
- 年配の方と子どもが交わる広場
- 赤ちゃん～老人まで自由に過ごせる場所
- 地域の交流会の場所をもっとたくさんつくる
- 料理教室等
- 地区センター、ケアプラザの様な集える所

《 あるといいもの・改善点 その他 》

- もっと多様な手段での情報伝達があると良い
- 交通機関の充実（地下鉄下飯田、相鉄線ゆめが丘駅へのバス）
- 侯野町内 高齢化が進むにつれて、行事の際子育て中の私たちに負担がかかってくる。お祭りの出店準備など。
- 道が狭い上に車の交通量が多く、常に通学、遊びに行く時心配してしまう。
- 夜（夕方）、電灯少なく道が暗い。
- ドリームハイツ内で子どもがあそんでいるとき、時々注意をしてくれる大人（年配の方）がいます。それはありがたいことなのですが、感情的になって怒る人が多いように思います。
- 子ども会
- 魚七前の違法駐車
- 大きな図書館 徒歩可
- 地区センター、スポーツセンター、学校の図書室 他 1 件
- 派出所が近くにあると良い
- 色々な事を、土日でやってほしい
- 環状 4 号線を走るバスがほしい。あと本数を増やしてほしい。戸塚駅、大船駅行きなど
- 自治会、管理組合の活動の負担軽減
- 地域の方々が色々してくださっているので今で満足
- 国際交流、子ども同士でイベント時期などを利用して集まってみたい

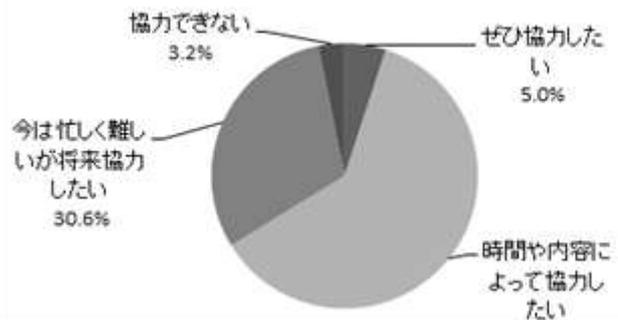
22 前設問で挙げたことを実現するために、あなたや家族は参加したり、協力することができますか

＜参加＞



N=218

＜協力＞



N=219

＜参加＞＜協力＞ともに積極的な意向をもつ人が多いことがわかりました。「今は忙しいが将来参加したい」も含めればほとんどの人が、参加・協力したいと考えています。

3.21WS では次のような意見がありました。参加や協力の意向が多いことは、大きな喜びでもあり期待でもある。一方で、実態としては参加が少ないので、このデータと実態とのギャップをどう捉え、今後埋めていけるかが課題となるといった意見でした。また、内容によるが、こうした積極的な意見をもっていると考えれば、これからは声かけがしやすいのではないかとといった意見もありました。

自由意見：

子育てをされていて感じていること 地域について感じていること

- ・四月から就学します。両親とも常勤のため、はまっこを利用したいのですが、時間が18:00まで(17:45までに迎えに来るように説明があった)では、足りません。市内の何校かはキッズで19:00までのところもあるようですが……。せめて、深谷台も18:00までであると、ありがたいです。ぜひ、改善をお願いします。「迎えが間に合わないので、仕方なく一斉下校の時間に帰宅させている」という話も多く聞いています。学童はあまり良い評判を聞かないので、利用するつもりはありません。
- ・アークプラザの裏、ハイツ2、3号棟の裏など不審者がいるなど聞きます。木々も道路に出ていて危ないので(1号棟横)整備して欲しいです。
- ・もう少し自由に(時間、曜日限られず)出入り可能な遊び場があればいいと思います。(屋内)雨の日など。侯野公園遊具少ないと思う。独居の方、年配の方が幼児との交流できる場があれば互いに良いと思う。今まで実家近くに住んでいたが、こちらに越して、子育て施設やイベントが多く、喜んでます。助かっています。
- ・最近、ベビーカーやチャイルドシートを嫌がり、なかなか外出しなくなってしまいました。暖かくなって座るのを嫌がらなくなってきたら、ぽっぽイベントに是非参加したいです。
- ・ドリームハイツは、子を見守る意識や改善しようとする大人の意識、生活に必要な施設が徒歩圏内にそろっている点、公園、自然、遊具が多いという点で子育てにはとても良い。最大の難点は通勤の不便さ(都内勤務のため)。
- ・相談する人もそばにいるけれど、時々孤独を感じる。自分と他人を比べて、となりの芝生は青く見えたり、社会人の不参加、つながりがないことに不安を感じる。ただ、気付けば、とてもせまい世界観の中で物をとらえていると見つめ直せる。そんなありがたい子育て支援施設が近くにあることがとても助かります。「ぽっぽの家」利用者が大変多く、また、子どもも成長してきたので、室内がせまく感じることもある。可能ならば、広く利用できたらうれしいです。
- ・公園が多い所が良い。
- ・ぜいたくかもしれませんが、自分が具合が悪いとき、病院に行きたいときなどに、当日でもあずかってもらえる所があると良いな、とつくづく感じます。ぽっぽにもあずけられますが、前日までの予約制なので。本当にツライ時に安心してあずけられる場所は今のところ無いんです。子どもが病気の時は自分が看てあげれば良いだけなんです。逆の時は誰も頼れないんです。今後の若いお母さんたちのためにも、どうかできないかな、と思っています。
- ・子どもが小さいと、24時間一緒に、本当に大変だと感じます。早く一人の時間が欲しいと思います。
- ・自然が多く、子どもを育てるには良い環境だと思います。年輩の方がいつも優しく子どもに話しかけてくださるので、嬉しいです。深谷台小付近の車の多さが気になります。
- ・21に記載している内容。古い町ですから、昔からの行事(伝統)をうけついでいく事は大事だし、都会にはない温かさを感じますが、高齢者が増える一方、新しくこの町に移住してくる人はいないので、段々と私たち世代に負担がかかってくる。住んでいる人々の環境は変わっているのだから、それに合わせて行事を減らす。内容を簡潔にする等臨機応変に対応していただきたい。なかなか新しい意見はとりいれにくいのでしょうか。自治会費が2ヶ月で1300円高いと思う。
- ・子どもを育てながら自分自身が親にしてもらっているのを感じます。二人の子どもは成長し、手はかからなくなってきましたが、年齢に応じた親としての悩み、不安は尽きません。こうやって自分の親も必死になって子育てしていたのかかな?と思えば、親のありがたさに感謝するばかりです。こちらで生活するようになりまだ数年ですが、ここは他地域と比べれば安全が守られている場所だと思います。とは

言っても、地域とのつながりを持つまでに至らない現状があり、余裕のなさが原因かな?と思います。お年寄りの方が子どもたちを見守ってくれる安心感があります。これからも地域の方と一緒に成長していきたいと思います。

- 当然ながら思う通りにはいかないな、と思います。親の心子知らず。自身が親になって痛感。でも子どもなりに一生懸命やっているの、見守りたいと思っています。私はドリームハイツに住んでいますが、他の場所（友人など）に比べ、環境も良く、安心して子育てすることができました。
- 駅へ出るのに確実な方法が欲しい（戸塚までは渋滞するため）。立場や下飯田へのバスを増やしてほしい。今後、子どもが学校（高校）へ通う時、通えないのではと思う。
- 子どもが元気に遊びまわることやうさぎとか迷惑に感じている人も多いので、子育てがしにくく感じることがあります。クレームによって家を追い出された人もいます。そういうことはあってはおかしいと思います。子どもの笑顔を見て、笑顔になれる地域や大人であってほしいです。
- 以前に住んでいた時よりも、公園や住宅も多く、子ども達は楽しく生活できているように思います。ただ、車通りの多い道と住宅とが近いため、子ども達の交通ルールは注意していきたいと思います。ドリームハイツ集会所などでも地域の活動は多く見られて、良いと思います。ただ、なかなか日時が合わなかったり、情報が入手できず、参加できていないので、このアンケートを記入していて、もっと自分自身が参加していく気持ちが必要かもしれないと思いました。
- 子育てをしやすい環境だと感じています。残念なのは、子ども会がないことです。
- 子ども達が暗くなってもなお、帰らず暗闇の中でゲームをしたりサッカーをしたり、親がそういうことにもっと関心を持ってほしい。
- 現在のはまっこ。高学年向きではない為、ほとんど低学年。特に楽しくもなく、先生方も、もっと工夫がほしいと感じる。アフタースクールも段々、つまらなくなってきた様子。両方をうまく連携して、どの学年でも楽しめる、また、放任後の居場所ができる親と子どもも安心。学童保育は、子どもをあずけたいとは思わなくらい環境がよくないと感じる。どちらも節電は必要だが昼間は子どもがいるなら電気はつけるべきだと思います。自分の子どもが今何を感じているか、考えているか、親としてももっともっと関心を示してほしい（大人も）。そうしたらもっと思いやりの持った子どもが育つと思います。
- 子どもへのしつけの仕方。親が大人と話すばかりで子どもを全く見ない。いつまでも園バスが行った後大声で話している親（とくにアークの前）
- 地域とのつながりが希薄になっているように思うことがあるのもっと関わられるような社会をつくってあげたらと思う。
- 子ども達がのびのびと遊べる公園や広場がたくさんあってとても良いと思います。そんな子どもたちががっかりするような大人の態度（タバコの投げ捨て、道路につばを吐く、ベランダでの喫煙）、子ども達はよく見えていますので、手本となるようにしていただきたいと思います。
- 支えてもらうことばかり考えず、自分でもできることを積極的に参加し、持ちつ持たれつ関係をつくりたい。が、実状は、経済的に余裕がないとできないことも。世の中大黒柱の男の人が忙し過ぎ女の人負担が大きい。女の人同士手を取り合い、乗り切りたい。
- 個別支援学級（在籍児）に対する正しい理解があまりないと感じます。
- 深谷台地域は、住民のための活動が活発なので安心して住み続けることができると思っています。この環境を存続させるには、個人が出来ることを少しずつでも提供する気持ちを皆に自覚してもらうことではないかと思います。既に皆のために活動して下さっている方々に感謝しています。

- 地域の子どもたちは平均してガラが悪い。深夜外で遊んでいる中、高生を見かける。パトロールも少ない。
- 深谷は他の地域に比べ、子育てについては、住みやすいところだと思います。深谷台小へ通わせていた時、学援隊の方々など、大変支えていただいたと感謝しています。その一方で、子育てを終えた一部の人は運動会や行事の時にクレームをしたり残念に思ったことがあります。親に心のゆとりがない方が多いように思う。子どもともっと向き合えるよう、親へのアドバイスを子どもが低学年のうちからしていく何らかの取り組みをした方がいいと思う。
- 小学校がなくなるうわさを聞くのでなくならないで欲しい。
- 父子家庭なので仕事と家事で忙しく地域の活動に参加する余裕がありません。
- やってもらう事を当たり前と思う親が多いのではと感じる。
- 子どもに言う前に親が自分の考えを持って自分の子や周りの子にも接していけばよいのだと思う。
- 近くに図書館や地区センターがあれば良いと思う。
- 子どもも親も地域に育ててもらっていると実感している。
- 親同士のつながりも大事にしながら皆で育ちあっていける関係を作っていきたいと思う。
- 親世代に仕事がない事が一番の悩み。うちだけでなく、友人も何人が困っている。そこがうまくいかないと、子や地域へ関心がいかない。生活基盤である家庭がうまくいくようにしなければ、地域全体までよくならない。
- 夜道がくらいと思う。夏休みラジオ体操がないとさみしいです。週2回なら朝協力できるので、がんばります。
- 子どもがいる事に、常に感謝をして毎日楽しく過ごす事を考えています。
- 地域の方には、夜などパトロールをしてくれてありがたいと思っています。
- 中学生が喫煙している姿を小学生が見ている。公園などで小さい子ども達が遊べない環境は悲しいです。また、小学生達が花壇で近くであそんでいたら、地域の大人が花壇の囲いが壊れているのを、「近くにいた」というだけで、子ども達を頭ごなしに叱ったという事もあった。
- 子ども達の手本となるべく大人が本当に少ないと思う。
- お年寄りに対する態度が、小学校全般見ていて、あまり良くない
- 戸塚西公園のローラーすべり台せっかくとてもよい施設なのに整備が悪く全然すべらない。もっとすべれば子ども達もっと利用すると思います。
- 以前、鎌倉市へ住んでいたころは、子ども会館という雨の日でも遊べる場所がありました。見てくれる先生がいて AM10:00~PM17:00 まで自由にあそべるところです。そういう場所が欲しい。あと図書館。横浜市も乳児医療を中学まで欲しい。
- 子どもが少なく高齢者が多いので、どうしても子ども向けの場所や行事が少なく感じる
- 高齢者と小学生、幼児と一緒に何かをする催しがあれば交流がもてると思う。ボランティア的なものを小学生（高学年）にやらせるなど……。地域の事をもっと知る機会があれば参加させたいと思う。

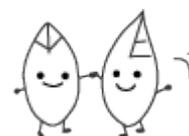
- 危険な遊び場、放射線量の高い場所などを調べた地図があるとよいと思う。(栄区で同様の取り組みを見たことがあります) 日中、仕事で家を空ける世代にも参加しやすい行事があるとよいと思う。
- 公園が沢山あり、子育てにはとてもいい所だと思う。ただ、自治会長が子どもが何かするととてもうるさく、感情的に怒るのでもう少しどうにかしてくれたらと思う。悪い事をしたら怒る大人は大事だが怒り方にトゲがあるので子どもがいる親としてはとても気を使って疲れてしまいストレスになる。
- 子育て中の母親の言葉がきたないため、その子どもたちも平気で使っている。ものすごく耳障りである。そのために親がなじめないため、子どももなじめないのではないかと心配
- 子どもがうるさいことに対する苦情が多いと聞いています。子どもはうるさくて当たり前、元気があって良いと思ってくれる、近隣の理解がもっとあればいいと思います。同時に私たち親も「子どもなんだから」と思うのではなく、迷惑をかけているのは事実ということ認識する必要があると思うし、子どもたちに生活のルールをしっかりと教えなければいけないと思います。真っ暗でも家に帰らない、公園にゴミを捨てていく、こういう光景を見るたびに親(大人)がもっとしっかりしなければダメだと思います。
- 地域の役員など昔ながらの方が多くの中で中々若い人が自由に発言できない事が多いと思います。異世代交流や新しい事を始めたいならこのような無記名アンケートなどで色々聞き出してくれるととてもよりよい地域になるのではないかとと思う
- 子育てに関する予算を削らないでほしい。人数が少ない施設でも今後へ向け地域で考えてほしい人と人がもっとつながりを深め、お互いが甘えあえるような雰囲気地域を作りたい
- 子どもたちの為に、プレイパークやアフタースクール等とても大事にして下っていると感じます。登下校中の見守りも大変心強いです。年配の方々本当に地域の為によくしてくださっていると感じます。小さい頃ぼっぼの家を利用し、皆さんに支えられ友達もたくさんできました。感謝でいっぱいです。小学生を持つお母さん、子どもたちの交流の場(地区センターみたいな講習会等参加したいです)あるとうれしいです。
- 子どもを見守ってくれる大人がたくさんいてありがたい。その反面地域に子どもが少ないと思う
- 30代後半からの母親のマナーが悪すぎて子どもがちゃんとなっていない。たばこや悪い子が多い気がする。(特に中学生) 安心して子どもを外に出せない。
- 今のところ、現状の付き合いや近所との関わりがちょうどよくて満足している。もう少し大きくなったらまた考えが変わるかもと思う。
- 子どものしつけができない親が多い風潮があると背世間では言うけど、子どもたちを見守る地域の目がたまに冷たいと思う時がある。(自分の子どもだけではなく全体的に)自分自身の子育ての環境については恵まれていると思う。子どもは子どもなのだから、大人がもう少し寛大になってほしい。
- 日々慌ただしく過ぎてゆきますが、子どもたちと一緒にいられることを当たり前の幸せだと思わず、感謝の気持ちを忘れず一日一日大切に生きていきたいと思います。
- この地域は、年々お年寄りの方々が増えてきておりますが、ふらっとステーションや夢みんなどの交流の場所はありますが、30~40代の子育て世代の人たちにも休日に健康な体づくりをするイベントなどがあるといいなあと思います。
- すでにグループができていて、他人を寄せつけないところがあると思う。もう少しオープンになってほしい。
- 図書館をもっと増やしてほしい

以 上

今後に向けて

今後やっていきたいこと、必要なこと ー第2回ネットワーク会議における意見よりー

3月21日に、アンケート集計結果を読み込んで意見交換をしました。その後、参加者全員が表題についての考えや意見をA4用紙に書き入れ、発表しました。今後への様々な提案や想いが前向きに語られ、新たな歩みに向けて期待が膨らんだワークショップとなりました。



◆学校や施設等子育て支援者の立場として

①親同士の交流が図れるような場を増やす

懇談会の場の持ち方もいろいろ工夫していますが、参加があまり増えないのが現状です。インパクトがないのか今後も場の持ち方などを検討していきたいと思えます。また、懇談会は年に4回なのですが回数が多いとの声もあり、悩みは多いです。懇談会には1/3の親御さんが参加してくれています。

②放課後の子どもの居場所づくり

アフタースクールのように、〇〇教室をやってみたら、子ども育てができるのではないかと考えています。特にスポーツ系、指導する人がいれば、放課後のサッカー教室もやってみたいです。

③日中の親向けの〇〇教室の開催

参加者が4~5人といった少人数でもOKなのでやりたいです。

④生涯教育、コミュニケーション研修、対話の場など親が育つ取組が必要と考えています。

⑤一人ひとりが他人の役に立っている実感が持てる小さな活動が大切ではないでしょうか。例えば、隣の家のお年寄り確認、小学生が通学前にお年寄りの家のゴミを一緒に持っていく など。

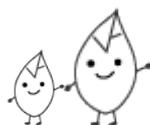
⑥助けてほしい時に「助けて」と言える仲間づくり、と同時に、一人ひとりが常に準備しておく心構えが必要ではないでしょうか。

⑦地域に働ける場所がたくさんあるとよいと思います。

⑧子育て世代のシェアホームがあるとよいと思います。

⑨「親になる」「家庭を運営するって何？」という授業なんかがあると面白いのではないのでしょうか。

- ⑩長く住み続けてもらうため、もう少し交通の便をよくして、子育てが終わってもその子どもたちにもここに住み続けられるようにしてほしいです。
- ⑪広場がある割に小学生が自由に遊べる場所が少ないとの意見があり、一か所でも良いのでルール等を決めて、作ってあげるとよいと思います。
- ⑫地域ケアプラザ、地区センター等の公的施設を早く作って、もっと気軽に交流できる場所をこの地域に作ってほしいです。そして、そこを利用してコミュニケーションのとれる場所やきっかけづくりをしたらよいのではないのでしょうか。
- ⑬みなさんの意見を聞いて、私たちは親同士のつながり作りや子どもの育ちについて、話したり、講座をしたりする機会がたくさんあるので、よりしっかりと活動していかなければ、と感じました。
- ⑭ハイツ内の数少ない子どもたちや子育て中の親の声や意見が届くようにしていきたいです。
- ⑮自由記入にあった一時預かりへの要望を、早速取り入れる体制を作りました。
- ⑯今回、地域の子育て関係の方たちと、より顔の見える関係になることができ、コアメンバーとして参加できてよかったです。

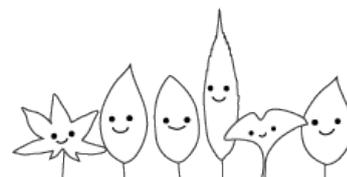


◆子育て当事者の立場として

- ①学級でのつながりを深める活動に力を入れていくので、今後は親同士のコミュニケーションが少しずつ取れていけるのではないかと期待しています。
- ②子育て世代のつながりを強くしつつ、それ以外の世代との交流を深める機会を作っていきたいです。
- ③学校でも、敬老会の方々の協力で、シニアと子どもとの交流はありますが、親との交流はあまりありません。一度でも話をして顔見知りになれば、地域で住みやすいと感じやすくなるのではないのでしょうか。親との交流の場があったらよいと考えています。
- ④地域交流室を拠点として、子育て相談などをしたらよいと思います。
- ⑤個人商店が地域では大事だと考えています。
子どもにとっては、緊急時の駆け込み所になっていますし、普段の声かけや会話の貴重な場にもなっています。子どもの初めてのお使いなどの経験もしやすいと思います。
中高年にとっては、特に一人暮らしの方にとっては貴重な会話の場になっています。また見守りの役目も果たしていると思います。店舗によっては、食事面のサポート

もあります。スーパーにはないコミュニケーションがあるので、絶対になくしては
いけない場所だと思っています。

- ⑥できれば塾や習い事ができる建物がほしいです。
- ⑦地区センターなど雨の日でも子どもが行ける場所がほしいです。また、いろいろな
年代の方が使える(料理教室、バドミントンなど)場所としても大事だと思います。
- ⑧将棋など子どもの相手をしてくださる方がいるとよいと思います。



◆自治会等地域の住民の立場として

- ①子どもも大人も、そして高齢者も皆で仲良く意見交換できる会を作ったらよいと思
います
 - ②子どもたちが、リタイアした大人や親と野球やボール投げができるような機会が
あるとよいと思います。
 - ③人と人が仲良く助け合えるような環境にしたいです。そのためにも、相手の気持ち
を思いやるような人が増えるとよいと思います。
 - ④コミュニケーション・地域のつながりを強化するために次のような取組が必要なの
ではないかと考えています。
 - ・自治会、町内会の役員を順番に1年程度経験してもらい、その間できるだけ多
くの活動・イベントを行うことで知り合いが増えます。協力し合うことで成功体
験と喜びが増えます。
 - ・モンスターペアレントなどで常識から逸脱しているようなクレーマーには、毅
然とした態度で対応することが重要ではないでしょうか。教育関係者にも拒否で
きることを自覚してほしい。こうしたことは、クレーマー自身のためにもなる
と思います。
 - ・自治会町内会が共同でイベントを行う機会が増えるのも効果があるのではない
でしょうか。実際に共同したことで役員が仲良くなりました。今後5年、10年
かけて続ければ住民同士も仲良くなれると思います。
- 例：大正連合（23 団体）の運動会
富士見ヶ丘自治会とレジェとの夏祭共催（昨年から実施）
- ⑤ 今回の調査結果を受けて、住民全体のアンケート調査を行ってみたいです。
 - ⑥ 親子や異世代の本音トークを聞きたいです。

- ⑦ プレハブ校舎で、卓球、吹き矢、囲碁、将棋などの遊び場を作り、異世代交流したいです。
- ⑧ 長期的な視点としては、若い人が中心となって、子どもの遊び場や図書室も含めた複合センターを建設できるとよいと思います。
- ⑨ ドリームハイツ内、俣野公園に鉄棒がないので設置してはと思います。
- ⑩ 子どもも大人も自由に楽しく喋れる場があるとよいと思います。
- ⑪ 地域で起きている子どもによる様々な出来事について、このネットワークで話しあえるといいです。
- ⑫ 地域の子どもや子育てへの厳しい目が増えていることへの対処として、子育て中の方と地域のリタイアした男性を中心とした方々の交流、コミュニケーションの場を、年に何回か設けたらどうでしょうか。これにより知り合い、理解を深めることでトラブルが起こりにくくなると思います。
- ⑬ お互い様の経験を増やす場として、親同士の交流、コミュニケーションの場づくりが必要と思います。
- ⑭ 公園をはじめとした遊び場について考える会をつくってはどうか。そしてこの考える会に、多様な世代、リタイアの男性を含む方々に参加してもらうこともよいと思います。それぞれの人の意識改革ともなるのではないのでしょうか。

以上の意見をまとめると次のようなことが言えます。

- ・アンケート結果から、育児環境は、全体的にみればほぼ健全なのではないか。
- ・アンケートの調査票を記入しながら、自分を振り返る機会になったのではないか。
- ・アンケートの提出が無かった家族のことを十分に配慮して、今後取り組んでいく必要がある。

新しい風を地域の力に変えるために

アドバイザー

NPO 法人市民セクターよこはま 石井大一郎

深谷台地域は、多くの子育て世代にとって、住みやすいまちであるということが今回の調査結果から改めて示された結果となりました。今回の調査結果で印象に残ったのは次のような内容でした。深谷台地域に住む人が安心して“その人らしく暮らし続けられるか”という観点から整理します。

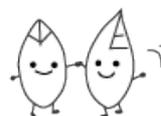
- (1) 現在の生活に対する満足度は 72.1%、このまちに住み続けたいと思う人は 65.3%といずれも高い値でした。とても嬉しい気持ちになります。そして、ネットワーク会議の中で、子育て中のママから「以前住んでいて、子育てしやすい環境であることがわかっていたので、戻ってきました」という声がありました。横浜に限りませんが、現在、郊外は住民の高齢化とともに、世代交代が始まりつつあります。選択される郊外とそうでない郊外が生まれ、後者の地域は、著しい人口減少や空き家化が進み、また地域的つながりも弱くなっていきます。子育て家庭は、不動産価格だけでなく、選択し移り住みます。今回の調査結果が示すのは、深谷台地域は選択される郊外であり、選択された後の満足度も高いということです。“子育てのしやすさ”は深谷台地域の文化になりつつあるのではないのでしょうか。最初の世代が作り上げてきた子育てしやすい環境を、いまの世代に合わせた形で引き継いでいく、そんなタイミングが来ています。どのように引き継いでいけるのか、最初の世代が作りあげてきたときと同様に、当事者を中心にして考えていくことが必要になっていると考えられます。

- (2) 2 つ目は、参加・協力意識の高さです。条件付きまでを合わせると、96%以上の方が積極的な姿勢を示しています。驚く値です。他の地区で同様な調査結果をみることはありますが、これほど高い値をみることは滅多にありません。

こうした参加意識がある一方で、少し違った側面から現実をみてみると、夫の通勤時間は長く、また土日の過ごし方については「家族で出かける」が非常に多くなっていました。さらにネットワーク会議の意見交換においても、「地域の催しに参加している人の数は多くない」、「いつも同じ人になっている」という声が多く出されていました。こうしたことから、実際に参加するのは簡単な状況ではないことが推察されます。工夫した働きかけや参加の方法を考えなければいけません。例えば、家族で参加できる体験型のイベントや、時間にゆとりが無いパパでもフェイスブックなどをとおして交流や広報を手伝ってもらえるような働き

かけなどが考えられます。

- (3) 3つ目は、アンケート結果からではなく、ネットワーク会議において情報提供されたことについてです。少し前に起こった子どもに関する事件のことです。これまでには無かった出来事のようなようです。さまざまな要因が考えられますが、(1)で述べたように新しい世代は、最初の入居時の世代とは異なり、家族構成や経済状況、そしてライフスタイルがそれぞれ異なるタイプの人たちが移り住んでいると考えられます。知らないことは誤解を生みやすくするので、まずは深谷台地域にどのような子育て家庭がいるのか把握すること、そして、地域を見守る目は、これまでに想定していなかったことが起こるかもしれないといった視点を持つこと、こうしたことを様々な団体・機関と共有しながら進めていく必要があります。



今回の調査は、調査の目的やプロセスそのものが極めてユニークなものでした。今後、他の地域においても、地域調査やまちづくりにおいて参考になる取組だったのではないかと考えられます。また、こうした調査を実施できた地域の皆さんの調査や意見交換の技術の高さに驚きました。

本報告書の冒頭で示した調査の目的 (2) 調査の過程で、子育てに関わる団体個人のネットワークを築く (3) 同時に新たな人材発掘を行う を実現できたことは、大きな成果です。地域運営協議会会長と、地域と子どもネットワーク会議代表の呼びかけにより、地域の中の子育てに関係する団体・機関、そして自治会、子育て真っ最中のママパパなどのメンバーが一同に会し、調査の目的や意義を共有できたこと、そして、子育て中のママパパと子育てを支援する団体や・機関といった異なる立場の人たちが意見交換することができたのは貴重な機会となりました。

深谷台小の地域交流室で始まり、3ヶ月間のアツい議論とさまざまな協力を得て巻き起こった新しい風を、今後、どのように地域の力に変えていくことができるのでしょうか。最後に、深谷台地域において「地域と子ども」に関する活動を展開していく上で、重要になるのではないかと考えられる取組を紹介します。

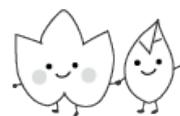
(1) ママパパが自分らしさを表現できる参加の場をつくる

開催の内容と方法については、当事者の声を大切にして組み立てていく必要があります。また、決まった役割がある活動(自治会役員や保護者会など)だけでなく、趣味や学習、体験などが出来る機会をママパパの馴染のあるところで実施するとよいのではないのでしょうか。興味のあるもの、本人が得をしそうなものでしたら、誰しも時

間を割きますし、最初の参加のきっかけの場として有効になると考えられます。そして参加者同士が話し合い、交流できる時間をとることで、次の参加や活動のステップにつながるかもしれません。すでにアフタースクールで実施されているものもあるようです。大人数になりすぎず、参加者同士の人格的なつきあいができる場があるとよいのではないかと考えられます。

(2) 様々な機会を通して今回の調査結果や今後取り組んでいく活動を伝え、また参加のきっかけや参加の仕方を促す情報を継続的に提供する

活動や参加が一部の人のためのものになってしまってはもったいないです。現在もネットワークは広がりつつありますが、興味がある人ない人に関わらず、地道な情報提供が重要になると考えられます。親子でよく出掛けるところでの情報提供など、工夫も必要になると考えられます。「コミュニケーションは伝える側に100%の責任がある」で行きましょう！



おわりに

地域と子どもネットワーク会議
代表 近藤 久美

アンケート結果をご覧になった皆様いかがでしたか？

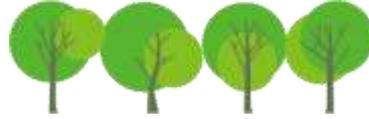
私は胸いっぱい夢いっぱい、そしてこのアンケートは宝物になりました。深谷台地域で一生懸命子育てをしている方々が、どんなことを感じ望んでいるのかを知りたい！という地子ネット（地域と子どもネットワークの愛称）のコアメンバー想いからアンケート実施の運びとなりました。

東日本大震災が起こり、今まで以上に人と人との繋がりが求められています。この地域でもっともっとつながりたい、そして子どもたちを育てていきたい、親として自分自身も成長したい。そんな思いをもっている方々がたくさんいることに勇気づけられるとともに、ではこれから何をすべきかを真剣に考えていきたいと思っております。

最後になりましたがアンケートに協力してくださった皆様に心より感謝申し上げます。そしてアンケートを実施するにあたり、地子ネットの皆様をはじめ、集計を引き受けてくださった子育て支援拠点「とっとの芽」の皆様、アドバイスをたくさんくださった市民セクターよこはまの石井様、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



—調査手法についての評価—



●実施できた背景

従来から住民主体の活動が盛んなドリームハイツで、平成 19 年度、自治会や地域のさまざまな活動団体による「ドリームハイツ地域運営協議会」が設立されました。ドリームハイツ地域運営協議会では、近年、地域内の高齢化が急速に進んでいることもあり、担い手の高齢化や一人暮らし・高齢者二人暮らしの見守りなどをテーマとして取り組んできました。

一方、子どもに関わる取組は、地域のつどい主催の「あそびの広場 俣野公園のプレイパーク」の運営や、横浜市の親と子のつどいの広場事業の補助を受けている「おやこの広場 ぽっぽの家」、障害児の放課後の居場所「つぼみの広場」、学童保育、はまっこ、自主保育、最近ではアフタースクールなどが活動してきました。こうした活発な活動がある一方、少子化が進むなか、幼稚園が閉鎖されたり、子ども会がなくなるなど、子どもや子どもをもつ世帯にとって、暮らしやすいとは言えない状況も生まれています。

このような中、平成 23 年度に再発足した「深谷台地域運営協議会」（以下、協議会と言う）は、ドリームハイツだけでなく、周辺の自治会や小学校、小学校 P T A も参加し、子ども・子育て世代のことがテーマとなってきました。この協議会で既に学校や自治会の連携が取れていたことが、この度の事業を実施できた大きな要因です。

●目的の設定

当事業の開始前に開催していた『地域と子ども』準備会（以下、準備会と言う）では、子育て当事者ではない支援者ばかりだったこともあり、当事者の声を聞きたい、という希望が出されていました。そこへ区役所から調査をしませんかとの声がかかったので、飛び付くように委託を受けて、協議会として実施することにしました。区役所からの提案の中に、若い専門家をアドバイザーとして派遣する、との条件が付いていたことは、心強く、背中を押してくれた要因です。

ただ調査をするだけでなく、その過程でネットワークづくり、人材発掘を目指しました。事業を進める過程において常にこうした点に配慮していました。

●ネットワークづくり

準備会メンバーだけでなく、深谷台地域の全ての子ども・子育て関係機関に呼びかけを行った結果、1自治会を除いて20団体（アドバイザー含む）が参加してくださいました。（不参加の自治会も、趣旨には賛同していましたが、自治会自体が協議会に参加継続するかどうかの協議中だったことで、不参加となりました）

20団体がネットワーク会議へ参加して、活発で熱心な意見交換が行われました。出席できない場合も文書での参加もありました。また、調査票を配布する際の作業にも時間を割いて参加いただきました。このようにして顔の見える関係ができました。

●人材発掘

協議会のメンバーの中でも若い世代の声を代表していたPTA会長近藤は、このネットワーク会議の代表として事業の取りまとめや会計を担うなど、新たな分野の経験をしました。また、PTAのつながりで他の役員、中学校の父母と教師の会の役員、小学校区に隣り合っている自治会の会長（彼も子育て世代真っ最中）、若い子育て中のママたちが新たに加わって会議や作業に参加・協力してくださいました。深谷台地域の子育てを共に考える関係者として、新たな人が加わり、つながることができました。

●調査票作成

調査票の作成に多くの人に関わったことも大きな意味がありました。第1回ネットワーク会議のワークショップでは当事者と支援者両方の意見が出されました。一般的な調査票に加え、かなり個人的な心理面まで踏み込んだ設問は抵抗があったかとも思われますが、それらは住民の意見の反映の結果でした。また、父親母親の会話時間を聞く設問については、単親の人にはきついのではないかと、という意見もあり、議論をしたり当事者に聞いた結果、さっぱりと聞こう、という結論に達しました。

●配布、回収までの作業

調査の対象や方法が、地域や団体・組織の中の全員、あるいは無作為抽出などのように明確になっている場合と異なり、対象年齢だけ決めた調査でしたので、住民主体でやることには大変な難しさがありました。

深谷台小学校は全面的な協力体制を組んでいただいたため、小学生を中心に配布を行いました。ネットワーク会議メンバーの深谷中学校では「深谷台小学校出身」という条件で数を把握し、配布していただきました。未就学児については把握が難しく、未就学児が多く住むアークプラザ戸塚自治会と、未就学児の親子の居場所ぼっぼの家を中心に、俣野保育園、苗場保育園、すぎのこ会、レジェ深谷戸塚自治会、そして戸塚区保健師さんに大正地区センターの赤ちゃん教室で配布していただきました。この地域に住んでいても他地域の保育園や幼稚園に通う人も予想され、正確な数字ではないことは覚悟の上でした。

配布と回収の作業は、学校や施設に大変な負担をかけたことと思います。無事終わることができたのはネットワークを組んだ大きな成果でした。調査票を学校や施設へ持参、回収など手間のかかる作業もコアメンバーの仕事でした。

●集計作業

子育て支援拠点「とっとの芽」の若い子育て世代のスタッフが集計を行ってくださいました。短時間でかなり細かい集計をお願いしてしまいましたが、期限通りに結果を出してくださいました。また、その後も何度も修正などの依頼をしたために、本当に負担をかけました。互いに、事前に十分な打ち合わせをしていればよかった、と振り返っています。

とっとの芽の施設長は、繰り返す修正要求にへきえきしながらも「がけっぶちで力を出せる根性の持ち主なので、どんどん伸びてます」と、スタッフをほめていました。ここでも想定外の人材育成がされていたようです。

●アドバイザーの力

この事業は住民だけでは実施できませんでした。心強い専門家のアドバイザーがいたからこそできたものです。調査を始める前に、住民全員と子育て世代へ同時の調査は難しい、2段階に分けては、というアドバイスももらいました。その後も時に応じ、子育て当事者として、調査やまちづくりの実践者として、適切なアドバイスを頂きました。

1回目ネットワーク会議では、雰囲気作りからワークショップの実施、意見の取りまとめ、方向を指し示すなど、大きな力を発揮して、参加者に事業への意識付けを行い、事業をスタートさせてくださいました。その後、設問についての細かなアドバイスや整理、集計方法の指示をいただきました。第2回目のネットワーク会議でも参加者の意見をどんどん引出し、参加者全員に共同作業の面白さを実感していただくことができました。

した。

そして最終作業は、報告書の仕上げです。調査について経験豊富なアドバイザーのため、本領発揮の場面です。隅々まで気配りしながら、協働でとりまとめ作業を行うことができました。

アドバイザー：石井大一郎氏

NPO 法人市民セクターよこはま理事兼事務局のほか、大学（横浜市立大学、明治学院大学など）で非常勤講師を務めています。一級建築士。市民主体のまちづくりについて実践と調査研究を行っています。

●区役所の応援

住民だけの力は、時に爆発的な力を発揮もしますが、時に思い込みがあったり、視点が偏ったりしてしまいがちです。どのような場面でも広い視野で、冷静に見守ったり、アドバイスをする人が必ず必要です。その役目を区政推進課の川邊氏が担ってくださいました。会議には必ず出席して前向きな意見を出してくださり、相談にも乗っていただきました。保健師の伊藤さんにも赤ちゃん教室のお母さんたちに調査をしていただききました。こんな応援も事業実施に欠かせませんでした。



ま と め

実施期間がごくごく短く、丁寧な打ち合わせができなかったことで、特に集計作業には大きな負担と煩雑さを負わせてしまいました。設問作成時点で集計について作業を担当してくださる方との打ち合わせが必要でした。

また、ゆっくりコアメンバーでも相談しながら丁寧に進めるべきところも、結果を出すことを急いでしまったことは反省点です。

一同、初めての体験ばかりでしたが、3か月という短い期間に、これほどまでに自身の濃い調査ができたことに安堵と充足感を感じています。

後は、この結果を回答者へ、住民へ返していきながら、より幅広い住民の参加を得て、課題を掘り下げ、課題解決へ向かう取組が期待されています。

○資料

1. ネットワーク会議の呼びかけ文
2. 調査票
3. 配布・回収団体と結果
4. 第1回ネットワーク会議「子育てや地域に関する意見」
5. ネットワーク会議参加団体一覧・メンバー 一覧
7. エリマネニュース 17号、19号、20号